



Web Fairy Paradise

第160号

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第135回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第136回 WFP 作品展
- ・ 第2回おぼかな作品展
- ・ Fairy of the Forest #68
- ・ 推理将棋第144回出題
- ・ 第14回神無太郎の氾濫 問題編

結果発表

- ・ 第134回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第142回出題

読み物

- ・ 実験室の悲劇(第1回)(占魚亭)
- ・ 双玉連続王手(さんじろう)
- ・ 求む! 入門編他担当者(再掲)



2021/10

はじめに



(ゆすはら雲の上の図書館) (坂本龍馬脱藩の道)

梶原町

しばらくはコロナ感染拡大防止ということで県外への外出が出来ない状況でしたが、やや収まって来た事もあり、仕事の組合関係の事業も少しずつですが再開し始めました。先ほど研修会で高知県梶原町に行ってきました。初めて訪れたのですが、森に囲まれた良い所で高知県の北西部で愛媛県と接する位置にあります。売りは「雲の上のまち ゆすはら」人口3千人位で標高も1000mを超えています。今回視察に来たのはオリンピックの開会式が行われた国立競技場を設計した隈研吾氏の建築群を見る為で梶原町には6棟あります。町内の木材をふんだんに使った建物はどれも圧倒されるものばかりで特に上記写真の図書館は中に入って度肝を抜かれました。

もう一つの名所として、坂本龍馬が1862年に高知県を抜け出し伊予の国(愛媛県)に脱藩した時に歩いた道があります(写真右)。日本の道100選にも選ばれている道で、時間があればいくらか歩いてみたかったのですが時間が足りず残念でした。

久しぶりに非日常の時間を過ごせてリフレッシュ出来ました。高知市から車で1時間半位です。機会がありましたら是非行って見てはいかがでしょうか。

たくぼん

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第160号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<https://sengyotei.hatenablog.com>

第135回WFP作品展(再掲)及び
第136回WFP作品展 担当：神無七郎

詰将棋考古学

今回の話題は「打歩詰」。とは言っても、反則としての打歩詰ではなく、ルールとしての打歩詰の話です。

「打歩」ルールは打歩以外の詰みを禁手または失敗とするルールです。近年では「打歩協力詰」のように、専ら協力系ルールと組み合わせることが多いですが、元は普通詰将棋の「詰」の定義を変えたルールでした。

このルールは、打歩詰が実現するまで「生かさず殺さず」受方を制御する必要があるので、自玉詰（自殺詰）と共通した性質があります。余詰を生じやすい所も自玉詰と共通しています。そこで、筆者は自作プログラムの Worst1.exe に「打歩」の検討機能を追加しました。鑑賞と同時に検証も並行して進めるためです。

筆者はフェアリーデーベースから「打歩詰」を抽出し、鑑賞を楽しんでいたのですが、過去の「打歩詰」作品の中には、作意不明の作品もありました。

森茂

打歩詰 51手(※早詰)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

					覬				一
					皇				二
					皇				三
					皇				四
				銀	皇	糸	糸		五
					飛				六
								馬	七
				馬		王	銀		八
				金	鰯		鰯		九

持駒 桂4

(将棋パズル,1978年4月)

早詰

39 銀 37 玉 36 馬 同歩 48 銀 38 玉

36 飛 37 歩 39 歩 まで 9 手

森茂氏らしからぬ簡単な見落としです。当時の結果稿には早詰のみ記載され、作意は発表されませんでした。修正再発表が期待されていたためでしょう。しかし、その後も修正図は発表されず、本図は作意不明のまま残りました。

幸いなことに、この図に限っては、作意の推定は容易でした。

〔上図の推定作意〕

39 銀 37 玉 36 飛 同歩 28 銀 38 玉
49 金 同香成 39 銀打 同杏 同銀 37 玉
49 桂 同香成 28 銀 38 玉 39 香 同杏
同銀 37 玉 49 桂 同香成 28 銀 38 玉
39 香 同杏 同銀 37 玉 49 桂 同香成
28 銀 38 玉 39 香 同杏 同銀 37 玉
49 桂 同龍 28 銀 38 玉 39 香 同龍
同銀 37 玉 36 馬 同玉 46 飛 37 玉
28 銀 38 玉 39 歩 まで 51 手

作意が推定できたので、修正案も考えてみたのですが、作意を変えない修正は意外と難しそうです。推定作意では 35 歩を 36 に呼び出し、収束でこれを取って詰めるのですが、初手 48 飛で強引に飛を消して、収束で 25 歩を狙うような余詰 (57 手) もあったからです。

また推定作意の 45 手目に飛を 57 以遠から打ち、銀で 36 歩を取る余詰 (55 手) もあります。

46 飛を金に変え、57 に何か駒を置けば一応の修正はできますが、これでは作者にも満足しては貰えないでしょう。修正図が発表されなかったのも、修正が困難なためかもしれません。

〔修正案(仮)〕

森茂

打歩詰 51手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

					覬				一
					皇				二
					皇				三
					皇				四
				銀	皇	糸	糸		五
					金				六
				歩				馬	七
				馬		王	銀		八
				金	鰯		鰯		九

持駒 桂4

(将棋パズル,1978年4月,
修正案:神無七郎)

森茂氏の打歩詰作品には、もう一つ作意不明の作品があったのですが、こちらは作意を推定できませんでした。

森茂

打歩詰 101手(※早詰)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			飛	飛					一
				王					二
					歩				三
			歩						四
			蹠						五
			と						六
				香	香				七
				香	歩	糸			八
			蹠						九

持駒 金3 香2

(将棋パズル,1978年4月)

結果稿では作意は掲載されていません。ただ、作意が101手であることと、作意が成立していれば、かなり難解な作品であることが示唆されています。51手の早詰の記載があったのですが、Worst1.exeを使った検討で更に短い39手の早詰が見つかっています。

筆者も作意推定を試み、99手解や103手解を複数見つけたのですが、101手解は見つかりません。きっと自分には盲点になる手が作意に含まれているのでしょう。

先入観を与えたくないなので、これらの手順は書きません。読者の皆さんは白紙の状態で解図に挑み、作意を推測してください。作意手順を復元し、修正案を得られれば、フェアリー詰将棋の財産が一つ増えることになるでしょう。

過去の作品には、時折「作意不明」の物があります。完全作なら解けば良いのですが、不完全作で作者が故人である場合、作意の推定が必要になります。最近では山本昭一氏の遺作に関して、平井康雄氏・添川公司氏が見事な作意推定と修正案を見せてくれました(参照：<http://www7.plala.or.jp/tsume/ymdotoh.html>)。

遺物からその意味を推測するという意味で、これは考古学のような作業です。フェアリー詰将棋が始まったのは、ほんの半世紀ほど前ですが、考古学的思考プロセスを要求される事態が、早くも生じ始めているのです。

神無太郎氏が行った「伝承」のプロジェクトは、記録の喪失を防ぐ大変重要な試みでした。このWFP誌もネット発表作の散逸を防ぐとい

うのが刊行の目的でした。時間を経るに従って情報が失われるのを完全に防ぐことはできませんが、残せる情報をなるべく残す継続的な努力は必要だと思います。

さて、今回のWFP作品展は第135回の再掲載分と第136回の新規出題分です。第136回は初登場のお二人を含め、12名の方から投稿をいただき、「一人一作展」となりました。

今回は作者が12名だったので、一人一作で良かったのですが、12名を越えた時は、どなたを優先するかで迷うことになりそうです。たぶん登場回数少ない方を優先することになると思いますが、作者の顔ぶれが多彩になることは良いことなので、嬉しい悩みといったところでしょうか。

〔第135回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第135回の出題は全12題(複数解作品を含むため実質13題)。今回登場する作者は高坂研氏、小林看空氏、神無太郎氏、占魚亭氏、はなさかしろう氏、springs氏、上田吉一氏、変寝夢氏、たくぼん氏の9名です。新ルールを含む様々なルールの作品が登場し、手数も短編から長編までバラエティーに富んでいます。以下の補足説明なども参考に、解きやすそうな作品、あるいは自分の好みのルールの作品から解き始めると良いでしょう。

135-1 及び **135-2** は高坂研氏の透明駒&性能変化ルールの作品。**135-2** は2解あるので、なるべく両方を答えてください。キルケと透明駒を組み合わせたとき、復活場所に透明駒があるかどうかで挙動が変わることが考えられますが、今回は『透明駒がある場合、「戻り先に透明駒が存在するため戻れない」、「戻り先に透明駒が存在しないため戻れる」のどちらかを手番側が選択できる』ものとします。特に問題がなければ、キルケ系ルールと透明駒の組み合わせでは、この設定を適用したいと思います。

135-3~**135-5** は小林看空氏提唱の「ライフル」作品。今回(第135回)の前口上でその紹介をしていますが、ルール自体は分かり易いので、すぐ慣れると思います。具体的にどんな手筋が現れるのか、実際の作品で確かめてください。今回の3題、**135-3** は例題級、**135-4** はルールの特徴を活かした詰上り、**135-5** は派手な大技が見られます。

135-6 は神無太郎氏の点鏡作品。**WFP133-1**と同様、標準駒にGrasshopper(G)4枚が追加されています。受方のGは3枚ですが、全部

使うとは限りません。

135-7 は占魚亭氏の **Imitator** 作品。それだけでなく中立 **NightRider** (n 夜) が使用されています。**WFP131-2** に関する作者のコメントの中にヒントが隠れているので、ルールの復習も兼ねて結果稿を読み返してみてください。

135-8 は、はなさかしろう氏の天使詰 (最長協力詰)。「単王手禁」(両王手でない王手は禁手) という独特の条件が付いています。つまり、「同一局面を避けながら、できる限り長く両王手を続けなさい」という問題と思えば良いでしょう。また「不成禁」(成れるのに不成とする着手は禁手) という条件も付いていますが、これは主に収束で効いてくるので、まずは「単王手禁」に集中してください。

135-9 は **springs** 氏による **Siren** (汝) を使った作品。**Siren** は本作品展でも何度か登場していますが、本局では双方の玉が **Siren** の性能になっています。盤面を大きく使う手順を考えてください。

135-10 は上田吉一氏の **Leo** を使った作品。前回 **Pao** (包) や **Vao** (砲: 角利きの包) を使った作品が登場しましたが、**Leo** は **Queen** 方向に利く **Pao** です。混同を避けるため、ここでは「砲」の表記を使用しています。本局も **Pao** 系の駒の特徴がよく分かる作品です。

135-11 は変寝夢氏によるボカスカ作品。氏は **WFP112-16** で中立駒と通常駒が連携するボカスカ作品を見せてくれましたが、今回は普通に通常駒同士と一緒に動く作品です。難解作というわけではありませんが、連携しそうな駒が3種もあり、手数も長いので、結構解き応えがあると思います。

135-12 はたくぼん氏による禁欲協力詰。楽しい趣向作なので、最初にこの作品から解くのも良いでしょう。

〔第 136 回作品展各題への補足説明〕

第 136 回の出題は全 12 題 (ツインを含むため実質 13 題)。今回登場する作者は駒井めい氏、小林看空氏、たくぼん氏、一乗谷酔象氏、上谷直希氏、上田吉一氏、藤原俊雅氏、変寝夢氏、**kisy** 氏、馬屋原剛氏、神無太郎氏、占魚亭氏の 12 名です。各作者 1 題ずつなので、まるで「一人一作展」ですね。バラエティーに富んでいて楽しい作品展になっていると思います。その分、次回以降への繰り越しが多数生じました。複数の作品を投稿して下さった作者の皆様には申し訳ありませんが、どうかご了承ください。

また、今回は駒井めい氏、**kisy** 氏のお二人が

初登場。これを機に、フェアリーの世界にどっぷり浸かってください。

136-1 は本作品展初登場の駒井めい氏の作品。ルールも前回登場したばかりの新ルール「ライフル」というわけで、フレッシュな組み合わせですね。ライフルはこれから様々な新手筋が見られると思いますが、本局ではどんな手筋が出てくるかお楽しみに。

136-2 は小林看空氏のライフル協力詰。狭い構図の割には手数が長いので、何か凝った仕掛けがありそうですね。本局を解けば「ライフル」は短編だけでなく中編でも面白い作品が作れると感じられるはずですよ。

136-3 はたくぼん氏の禁欲作品。構図が狭く持駒も強力なので簡単に詰みそうですが、「禁欲」のせいでそうはいきません。局面がほぐれてからは習いある収束が待っているのです、そこまで頑張りましょう。

136-4 は久々に推理将棋の登場です。作者は一乗谷酔象氏。わずか 45 手で盤上煙 (持駒は余るが盤上は最少枚数の 3 枚で詰める) を実現せよという、最短手数探索問題です。条件が 6 つありますが、条件 1) と 2) を満たせば正解とし、6 つの条件をすべて満たせば完全な正解として 1 点加点します。

136-5 は上谷直希氏の強欲作品。狙いが見えれば解きやすいと思います。上手にヤマを張りましょう。

136-6 は上田吉一氏の軽趣向作品。フェアリー駒が 2 種使われていますが、むしろそのおかげで手は限られています。受方持駒なし、**PWC** ルールなので駒の増減もない……ということは「あの駒」で詰めるしかありませんね。

136-7 は藤原俊雅氏の受先作品。「これって 1 手詰？」と思った方はいませんか？ 攻方手番なら確かに 1 手詰ですが、あいにく手番は受方。うまく攻方に協力する手を探してください。

136-8 は変寝夢氏のレトロ作品。レトロ協力詰ではなく、レトロ協力自玉詰です。協力自玉詰なのに受方玉を詰めてしまったので、7 手戻して、やり直すわけですね。

136-9 は本作品展初登場の **kisy** 氏の作品。先月号 (**WFP159** 号) でお披露目された「最後の 1 ピース」の作品です。「最後の 1 ピース」は示された図に、指定された枚数の駒を『追加』して、指定ルール・手数の完全作を作れという出題形式です。本局は「詰将棋 5 手」の完全作を作れという設問です。ただし、作意は完全限定ではなく、最終手は二通りの詰め方があります。

出題図のフォーマットは、「最後の1ピース」をルール名・手数の前に書き、追加枚数や、特段の注意事項（今回の場合は最終手の非限定）を図の下に注釈で示す形式にしています。今後このフォーマットは、分かり易さ等を考慮して、変更するかもしれません。

本局は、普通詰将棋のルールでの出題なので、フェアリーに慣れた方は、以下の2点に特に気を付けてください。

1. 無駄合概念が適用される
2. 同手数駒余り変化は劣位変化となる

なお「最後の1ピース」における『追加』は、文字通りの追加ではありません。より正確に言えば「受方の駒台または駒箱から盤上または攻方駒台への移動」です。標準駒に追加で新たな駒が加わるわけではありません。また、駒箱から移動するのは玉だけであり、玉は駒台には移動しないという暗黙の規則もあります。

「最後の1ピース」をフェアリーに適用することを前提に『追加』のプロセスを再定義してみましょう。

1. 駒箱に標準駒を用意する。
(非標準駒数作品やフェアリー駒を追加する場合は、ここで使用する駒の種類と数を定義する。)
2. 駒箱から駒を取り出し、出題図の通りに配置する。
3. 駒箱から指定された枚数の駒を取り出し、盤上または攻方の駒台に配置する。
4. 駒箱に残った駒のうち、玉以外の駒を受方の駒台に配置する。

赤字で示した部分がフェアリーで拡張または変更される可能性のある箇所です。その場合は使用駒と数を明示して出題します。また、非常に特殊なケース（例：玉を持駒にできるルール）で他のステップにも変更が必要な場合、それを明示して出題します。

以上、説明が長くなりましたが、新しい出題形式なので、注釈過多はご容赦ください。次回以降は必要最小限の補足説明になると思います。

136-10 は「最後の1ピース」の発案者、馬屋原氏ご自身の作品です。追加駒は「生駒3枚」とありますが、ルールが「協力白玉詰」なので、このうち1枚は受方玉に確定しています。攻方玉が中段にいるので、詰上りも限られており、先に詰上りを想定して解くことをお勧めします。

136-11 は神無太郎氏による点鏡&フェアリー

一駒シリーズの一作。**135-6** と同様 Grasshopper (G) は先後合計4枚の設定です。

136-12 は占魚亭氏による Imitator 作品。フェアリー駒として Knight (騎) が加わっています。「成禁」条件があるということは、成れる場所の着手が出てくるわけですが、それは何でしょう？ ツイン (組局) なので、なるべく両方解いてください。難しいので、片方だけの解答も歓迎します。

解答要項

第135回分解答締切: 2021年11月15日(月)

第136回分解答締切: 2021年12月15日(水)

宛先: k7ro.ts@gmail.com (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。原則として毎月15日の投稿まで当月号に掲載しますが、投稿作が一回の出題数(12題)を越えた場合、出題時期を調整させていただきます。

宛先は解答と同じ k7ro.ts@gmail.com へ。

メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

WFP 作品展: 年末年始の予定

来年1月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、WFP 作品展 12月号の新規出題と来年1月号の結果稿はお休みさせていただきます。

今後の予定は以下ようになりますので、あらかじめご承知おきください。

	11月	12月	1月	2月
第136回	再掲	結果		
第137回	出題	再掲	再掲	結果
第138回			出題	再掲
第139回				出題

ルール説明

※WFPのページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule128.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【点鏡】

55に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わ

る。

(補足)

・行き所のない駒の禁則は適用されない

→初出：第 108 回 WFP 作品展 (WFP127 号)

【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83 号「透明駒の紹介」

【キルケ】

駒が取られると最も近い将棋での指し始め位置に戻される。戻せないときは持駒になる。

(補足)

戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 成駒は生駒になって戻る。
- 2) 戻り位置が埋まっていたり、二歩になったりする場合は戻れない。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 4) 金銀桂香 (成駒も含む) が 5 筋で取られ、複数の戻り先候補がある場合、戻り位置を選択できる。
- 5) **透明駒がある場合、「戻り先に透明駒が存在するため戻れない」、「戻り先に透明駒が存在しないため戻れる」のどちらかを手番側が選択できる。**

【n 解】

解が複数あり、指定された n 個の解を求める出題形式。

【ライフフル】

駒を取ったとき、取った駒が元の位置に戻る。(補足)

Rifle Chess の翻案。

本来は「居ながらにして利き先の駒を取れる」であるが、「取った後で元の位置に戻る」とも解釈できる。ここでは成・不成の選択ができるよう後者の解釈を採り、以下の細則に従うものとする

- 1) 駒取り時、駒が戻るまでを一手とみなす。駒を取った瞬間だけ「白玉への王手」となったり、「行き所のない駒」になったりしても構わない。
- 2) 生駒による駒取りで「現位置」「駒取り地点」のいずれかが可成地域にある場合、成・不成を選択できる。

→参照：WFP159 号 (第 135 回 WFP 作品展)

【協力白玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【スタイルメイト】

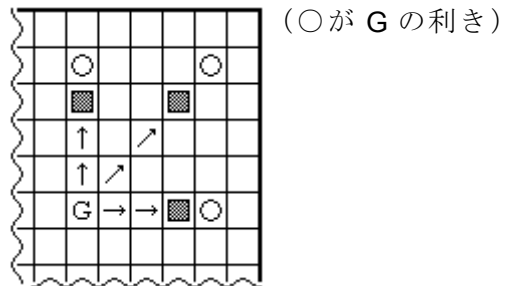
王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

【協力白玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

【Grasshopper】(G)

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を 1 つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



(補足)

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・パオと違って飛び越さないと動けない。動ける場所も飛び越えた駒の隣だけ。
- ・成ることはできない。
- ・2 つ以上の駒は飛び越せない。

【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

(補足)

- ・駒を打ったときは動かない。
- ・Imitator は元の駒と同時に動く

→参照：WFP75 号「Imitator の紹介」

【中立駒】(「♁」あるいは「n 駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

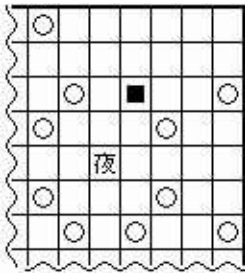
取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。

- 5) 中立歩による打歩詰は禁止。二歩禁も適用される。**手番を問わず**、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも**自玉への王手は反則**。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。
- 参照：WFP61号「中立駒の紹介」

【NightRider】（夜）

フェアリーチェスの NightRider。
ナイトの利きの方向に連続飛びができる。



(○がナイトライダーの利き。■に駒があるとそこから先には利かない。)

【単王手禁】

両王手（多重王手）でない王手は禁手。

【不成禁】

成れる駒が成らない手は禁手。

【天使詰（最長協力詰）】

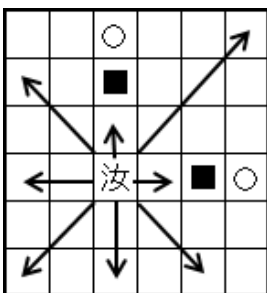
先後協力して最長手順で受方玉を詰める。

（補足）

- ・悪魔詰と異なり不詰は避ける
- ・手順中に同一局面があつてはならない（初形を含む）

【Siren】（汝）

フェアリーチェスの Siren（汝）。駒を取らないときは Queen の動き。駒を取るときは Locust の動き（Queen の利きの方向にある敵駒を跳び越えその1つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る）。



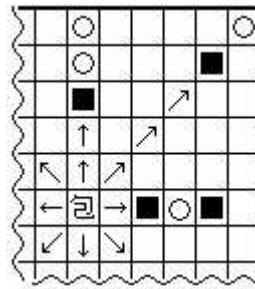
(矢印が駒を取らない時の動き。○が駒を取る時の移動先。■は敵駒。これを取って○に行く。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりするとそこには行けない。)

→初出：第102回 WFP 作品展（WFP119号）

【Leo】（包・炮）

フェアリーチェスの Leo。
中国象棋の Pao の利きの方向をクィーンにしたもの。駒を取らずに動く時はクィーンと同じ。駒を取る時はクィーンの方向に1枚だけ駒を跳び越えて動く。

したもの。駒を取らずに動く時はクィーンと同じ。駒を取る時はクィーンの方向に1枚だけ駒を跳び越えて動く。



(矢印が Leo の動く方向。○は Leo が駒を取る時の利き。■は敵または味方の駒。駒を2枚跳び越すことはできない。)

（補足）

- ・混同のおそれがない場合、本作品展では表記は「包」を使う。Pao と区別するときは「炮」などを使う。

→初出；第68回 WFP 作品展（WFP77号）

【ボカスカ】

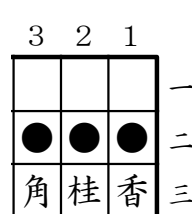
盤上にある同じ所属の同じ種類の駒は、すべて同時に同一方向に動かす。

（補足）

- 1) 成駒と生駒は別種とみなす
- 2) 可能な限りすべての駒を同じ距離動かす。動かせない駒があれば動かせるだけ動かす。
- 3) 成・不成は1枚毎に自由。持駒も同じ種類の駒はすべて同時に打つ。
- 4) 歩だけは例外で打つのも動くのも単独。

【石】（●）

不透過・不可侵の領域を表す。跳び越すことは可能。



例えば左図で、
12香や11香成は不可。
22角や11角は不可。
11桂成や31桂成は可。

【禁欲】

駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【強欲】

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。（駒位置の交換となる）

（補足）

戻り方等は以下の細則に従う

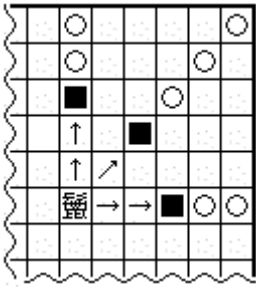
- 1) 駒の成・生の状態は維持されたまま位置交換される。

- 2) 位置交換の結果、相手駒が二歩になったり、行きどころのない駒になる場合は、通常の駒取りと同じで、盤上に戻らず、自分の持駒になる。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 4) 取られた玉は復元しないものとする。

【Lion】（鬣）

フェアリーチェスの Lion。

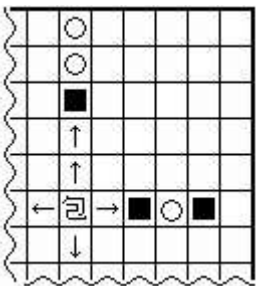
クィーンの利きの方向にある駒を1つ跳び越えその先の任意のマスを着地する。着地点に敵駒があれば取れる。



(○が鬣の利き。
■は敵または味方の駒。○の地点が埋まっていると、その先には跳べない。)

【Pao】（包）

中国象棋の駒。動くときは飛車と同じ。駒を取るときは必ず一つ駒を飛び越えて取る。



(■は敵か味方の駒。
○は取るときに動ける場所。矢印は駒を取らないときに動ける場所。)

(補足)

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・グラスホッパーと違って着地場所は飛び越えた駒の隣でなくてもよい。
- ・成ることはできない。
- ・2つ以上の駒は飛び越せない。

【受先】

受方から指し始める。

【レトロ -m+n 手】

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。

(補足)

- 1) 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2) 協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

【最後の1ピース】

出題図に指定された枚数の駒を“追加”して

指定されたルール・手数の完全作にする。追加する駒は、攻方の駒、受方の駒、攻方持駒いずれでも構わない。

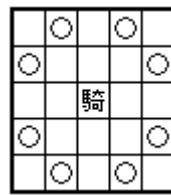
(補足)

ここで言う“追加”は、標準駒の範囲内で行われる「受方の駒台または駒箱から盤上または攻方駒台への移動」のこと。玉は駒台に移動しない。

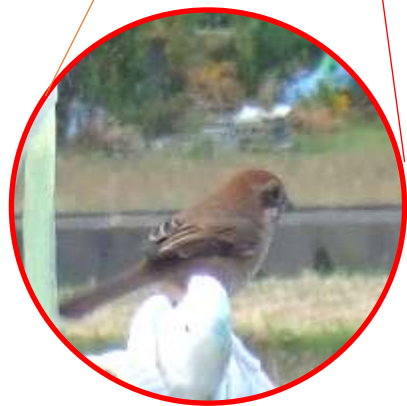
→参照：WFP159 号『「最後の1ピース」の紹介』

【Knight】（騎）

チェスの Knight。八方桂。



(○が騎の利き)



<第 135 回>解答締切:2021 年 11 月 15 日(月)

■ 135-1 高坂研氏作

点鏡協力詰 3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



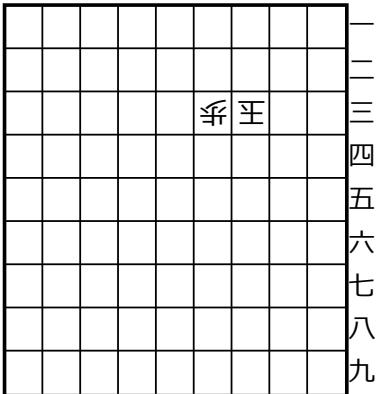
持駒 角

※透明駒: 攻方1枚、受方1枚

■ 135-2 高坂研氏作

キルケ協力詰 5手(2解)

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 なし

※透明駒: 攻方2枚、受方0枚

■ 135-3 小林看空氏作

ライフル協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

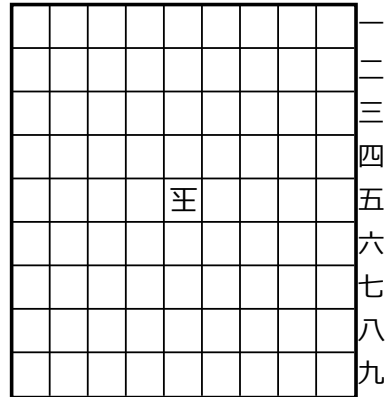


持駒 角香

■ 135-4 小林看空氏作

ライフル協力詰 11手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

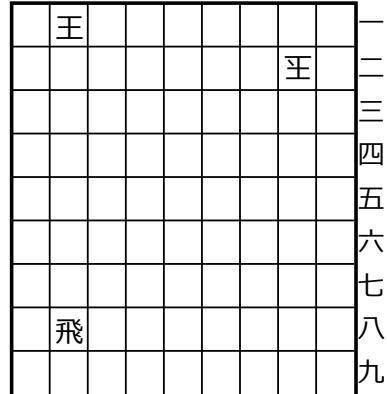


持駒 桂4

■ 135-5 小林看空氏作

ライフル協力自玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

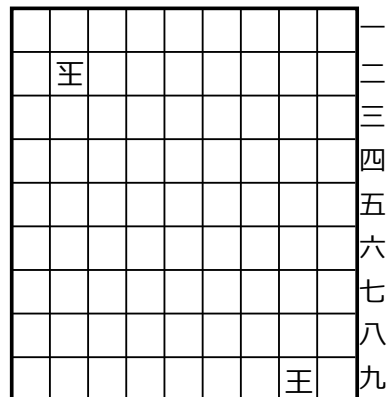


持駒 飛角香

■ 135-6 神無太郎氏作

点鏡協力自玉 ステイルメイト 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 角G

受方持駒 残り全部+ G3

※G: Grasshopper

■ 135-7 占魚亭氏作

協力自玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
■									四
									五
			㊦		王				六
									七
						㊦			八
								王	九

持駒 n夜

※ ■:Imitator

n夜:中立Nightrider

■ 135-8 はなさかしろう氏作

単王手禁不成禁天使詰 55手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			角			角			一
					金				二
						歩			三
銀				桂			銀	飛	四
飛		銀							五
	銀	王			香				六
	香								七
		金	香						八
		香							九

持駒 なし

■ 135-9 springs 氏作

協力詰 11手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								㊦	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
								卒	八
汝									九

持駒 なし

※ 汝:Siren王

■ 135-10 上田吉一氏作

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
		糸							二
		炮							三
							炮		四
									五
									六
									七
								糸	八
								王	九

持駒 なし

※ 炮:Leo (Q利きの包)

■ 135-11 変寝夢氏作

ボカスカ協力詰 449手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

渡	●	と							一
●	歩	●	●	●	●	●	●		二
	●	●	●			渡	●		三
王	●		●	●		●	●		四
我	●			●	●		●		五
歩	●		●			●	●		六
香	●	㊦		●	と	金	●		七
	●	●	●	●	●	●	●		八
と	金								九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※ ●:石 (着手不可、不透過)

■ 135-12 たくぼん氏作

禁欲協力詰 127手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
		王							五
			糸	糸	糸	皇	糸		六
						王			七
香									八
金	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦			九

持駒 歩7

<第 136 回>解答締切:2021 年 12 月 15 日(水)

■ 136-1 駒井めい氏作

ライフル協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
						歩		王	二
						香			三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角2

■ 136-2 小林看空氏作

ライフル協力詰 19手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
						銀	香	香	六
						桂	桂	王	七
						香			八
						歩	歩		九

持駒 飛

■ 136-3 たくぼん氏作

禁欲協力詰 67手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

角	王	マ	マ	皇					一
	マ	マ	マ	皇					二
香	香	香	香	香	香				三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀3 歩2

■ 136-4 一乗谷酔象氏作

推理将棋 『盤上の駒が3枚だけ』

「激しく駒を取りあっていたさっきの将棋、どうなった？」
 歩を突く手に対して端の手で応じる手と金を取る手に対し端の手で応じる手は見たけど」
 「45手で詰ませて勝っちゃった。これが投了図だよ」
 「なんと、盤上の駒が3枚だけ！煙詰だね」
 「同じ駒の手がよく続いて、4枚の駒が各々14連続、11連続、5連続、5連続で着手された。それに不成の王手が2回あったよ」

[条件]

- 1) 45手で詰んだ
- 2) 終図盤面の駒数は3枚
- 3) 歩を突く手に対し端の手で応じた
- 4) 金を取る手に対し端の手で応じた
- 5) 4枚の駒が各々14連続、11連続、5連続、5連続で着手された
- 6) 不成の王手が2回

■ 136-5 上谷直希氏作

強欲協力詰 19手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

王									一
									二
		王	馬						三
	香								四
銀	銀								五
									六
									七
						角			八
									九

持駒 桂4

■ 136-6 上田吉一氏作

PWC協力自玉詰 24手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							王	鬘	一
							糸		二
							包	王	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※鬘:Lion、包:Pao (象棋の包)

■ 136-7 藤原俊雅氏作

協力詰 6手 (受先)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								馬	一
								進	二
					金				三
	銀	王							四
									五
			桂	銀					六
									七
			桂						八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

■ 136-8 変寝夢氏作

レト口協力自玉詰 -7+2手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
							糸		二
									三
								王	四
									五
							銀	王	六
								龍	七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

■ 136-9 kisy 氏作

最後の1ピース・詰将棋 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							銀	銀	銀	王	一
										角	二
										香	三
										マ	四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 なし

※1枚追加、最終手非限定可

■ 136-10 馬屋原剛氏作

最後の1ピース・協力自玉詰 2手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
	角					歩			五
						王			六
									七
									八
									九

持駒 なし

※3枚生駒追加

■ 136-11 神無太郎氏作

点鏡協力自玉 ステイルメイト 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
							王		三
									四
									五
									六
									七
									八
							王		九

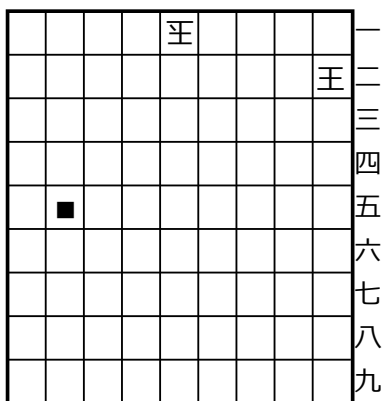
攻方持駒 飛G

受方持駒 残り全部+G3

■ 136-12 占魚亭氏作

a) 成禁協力白玉スタイルメイト 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

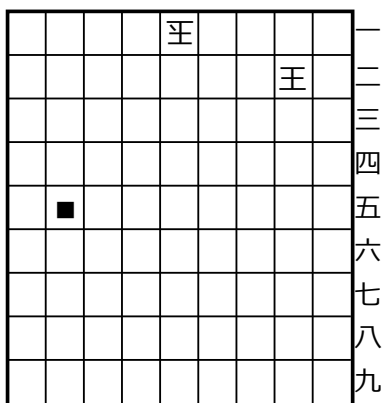


持駒 騎

※ ■:Imitator、騎:Knight

b) 成禁協力白玉スタイルメイト 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 騎

※ ■:Imitator、騎:Knight

以上



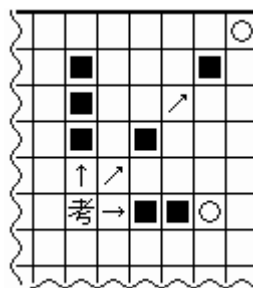
今月の手筋



(※解答は P55 に掲載)

【Kangaroo】(考)

フェアリーチェスの Kangaroo。
クィーンの利きの方向にある駒を2つ跳び越えその先のマスに着地する。着地点に敵駒があれば取れる。3つ以上は跳び越せない。跳び越す2つの駒は間が空いていても良い。



(○が考の利き。■は敵または味方の駒。)

本コーナーへの投稿を募ります。
「例図」及び「手筋の名称」「意味」「解答」(できればカードの他の項目も)記述して担当者まで送りください。
「手筋の名称」は既存のものがなければ、造語でも結構です。
また、例図は紹介する手筋以外の要素を極力排し、「教材」に徹してくださるようお願いいたします。

Fairy of the Forest #68出題

- 2021年08月20日：課題発表：（協力詰）
「自由課題」
- 2021年10月15日：投稿締切
- 2021年10月20日：出題
- 2021年11月15日：解答締切
- 2021年11月20日：結果発表

■ 出題

肝腎系の機能低下により、8月下旬から9月中旬まで入院していました。今まで病院のお世話になることはほとんどなかっただけに、寄る年波を痛感しています。

さて今回は、たくぼん氏からの2題のみ。ちょっと淋しいのですが、短いと長いのでそれぞれお楽しみください。長い方は、受方持駒なしにご注意を。

多数のご解答をお待ちしています。

(解答先)

→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)



■ 68-01 たくぼん

協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				飛					二
	玉	角							三
									四
			王		飛				五
	玉		飛						六
									七
									八
									九

持駒 飛金

■ 68-02 たくぼん

協力詰 41手

持駒 なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						銀		皇	一
							歩		二
					金	桂			三
			歩	香					四
									五
		飛				歩	王		六
									七
								玉	八
								歩	九

持駒 角

第2回

おぼかな作品展



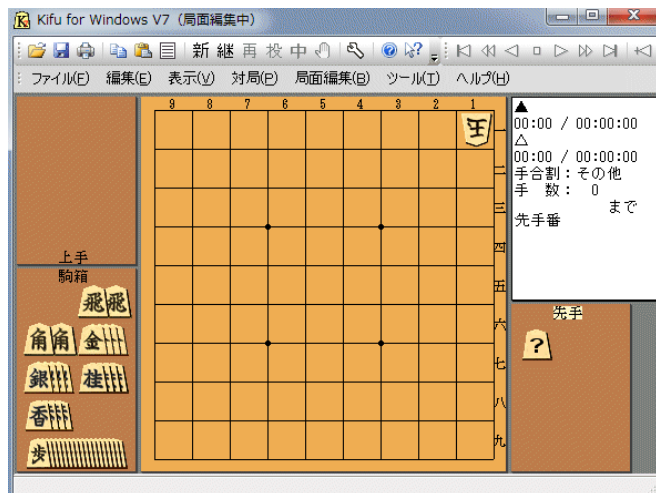
第1回のおぼかな作品展開催から10年の年月が流れてしまいましたが、今回満を持して第2回おぼかな作品展を開催致します。作者との知恵比べをとくとお楽しみください。なお注意事項として一言、作者のこじつけや一人よがりのケースがあるかもしれませんが、どんな正解であろうと笑って受け入れて頂きますようお願い申し上げます。

【解答要項】

解答締切：令和3年12月12日（日）
 解答発表：WFP162号（2021年12月号）
 解答審査：なお作品の解答審査につきましては作者に確認の上（余詰・不詰指摘含め）したいと考えております。解答審査の期間を設けるため締切が通常15日と異なり12日としておりますのでお間違えのないようお願いいたします。

解答送り先：
 たくぼん (takuji@dokidoki.ne.jp)

① たくぼん



※図の作品は1手詰です。ルール名と持駒、詰手順をお答えください。玉は通常の玉の利きを持ちます。なお1手詰ですのでかしこ詰、協力詰はどちらでもよいのですが、本作はかしこ詰としてお答えください。

② 小林看空

1/2手詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1
				飛		科	角	一
						科		二
								三
						王		四
								五
							王	六
								七
								八
								九

持駒なし

③ 小林看空

1/2手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
王		王						六
		王						七
		王						八
?	歩	王						九

(双方持駒なし)

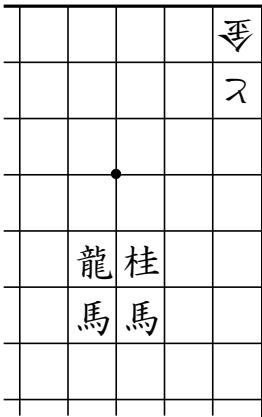
? = 王が成った駒 (99の駒)

※どちらの勝か？ 理由は？



④ 神無太郎

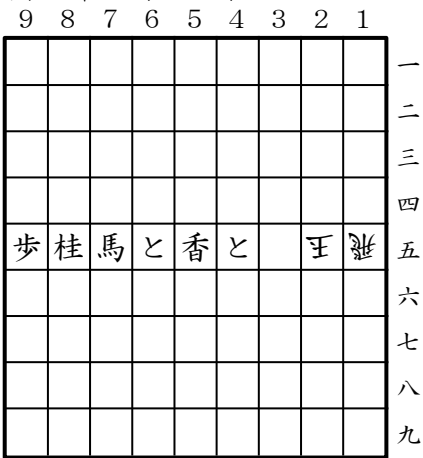
歩王詰 1手



持駒 なし

⑤ 神無太郎

命名 "Repeat after me"
協力千日手 10手



持駒 なし

※詰手順は普通です。手順以外の作意（狙い）を当ててください。



⑥ 一乗谷酔象

【推理将棋】おぼかな将棋教室

「今日の課題は煙詰の創作です。妙手を織り込んで終図盤面の駒数が3枚だけの将棋を並べてみましょう。ずばり手数は46手です。これだけでは面白くないので次に挙げる四つのテーマから一つ選んで手順を示してください。

- A) トドメは銀
- B) 銀をヒク
- C) 終図で飛角金銀は12枚スベテ持駒
- D) 終図で歩10枚はセンテ持駒

いずれもクリアするのが難しそうですが、取り組みやすいテーマをよく考えて選んでください。ひょっとすると実現不可能なテーマが混ざっているかもしれません」

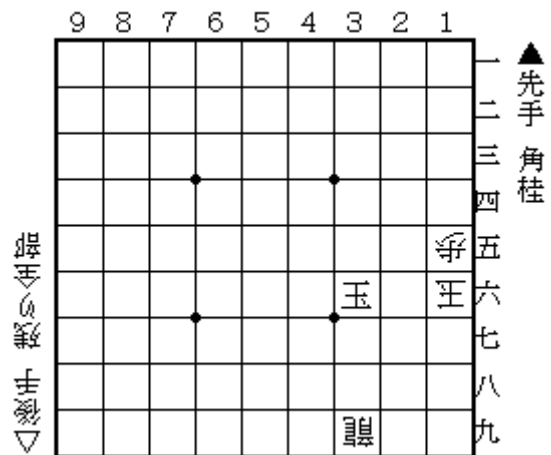
(条件)

- ・46手で詰んだ
 - ・終図の盤面駒数は3枚
- ただし、上記A~Dのテーマのうち一つ満たすこと。非限定は許容する。

※二つ以上のテーマを同時に満たせば超正解です。また、44手以下(後手勝ち、A~D不問)も超正解扱いとします。

⑦ 上谷直希

ばか詰 7手



⑧ 馬屋原剛

協力自玉詰 2002手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						桂	王		一
						飛	科	科	二
								玉	三
									四
						桂			五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩

⑨ 馬屋原剛

協力詰 -2+1手 透明駒 (0+0)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
						龍			八
									九

持駒 なし

※逆算するときには王手義務あり



⑩ 青木裕一

Anticirce協力詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				飛					三
			王						四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

(注) 各ルールの説明につきましては、WFP 作品展登場ルールのまとめをご覧ください。

<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule128.pdf>

第134回WFP作品展の結果を報告します。

今回の出題は全11題（ツインや複数解作品を含むため実質15題）。解答者数7名。全題正解者1名。解答の内訳は以下の通りです。

〔第134回WFP作品展成績〕（敬称略）

◎:双方解 ○:正解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3a	3b	4A	4B	4C	5	6	7	8	9a	9b	10	11	計
占魚亭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	16
たくぼん	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	13
はなさかしろう	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13
一乗谷酔象	-	-	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	◎	×	○	12
変寝夢	-	-	○	○	○	○	○	-	-	○	○	○	○	○	○	11
springs	-	-	○	○	○	○	○	○	-	○	○	-	-	-	○	9
ティエムガンバ	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	7

今回は期せずして短編特集になりました。解答者数は微増の7名。全体的な解答成績は良好でしたが、134-1が実質正解者ゼロとなってしまいました。作品の方は134-9bに非限定的な余詰発生。逆に134-10では常連解答者が誤解に陥り、透明駒の難しさ（錯覚しやすさ）を示す結果となりました。詳しくは各作品の解説をお読みください。

■ 134-1 占魚亭氏作（正解1名）※実質正解者なし
協力詰 7手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										
二								■		
三						王	兵			
四			飛							
五										
六										
七										
八										
九										

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※33角、64飛は中立駒
■: Imitator

【ルール】

- 協力詰
先後協力して最短手数で受方玉を詰める。
- 中立駒（「**兵**」あるいは「n駒」）
どちらの手番でも動かせる駒。
（補足）
横向きの字か横に n を付加して表記。
取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 中立歩による打歩詰は禁止。二歩禁も適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。
→参照：WFP61号「中立駒の紹介」

- Imitator（■またはI）
着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

(補足)

- ・駒を打ったときは動かない。
- ・Imitator は元の駒と同時に動く

→参照：WFP75号「Imitator の紹介」

【解答】

44n 飛[I12] 54n 飛[I22] 44n 角成[I33]
 99n 馬[I88] 53n 飛生[I87] 44 玉[I88]
 54n 飛成[I89] まで 7 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
				王	王				四
									五
									六
									七
									八
馬	■								九

攻方持駒 なし
 受方持駒 なし

【作者のコメント】

WFP132-1 の姉妹作その 2 (2016 年 4 月完成)。WFP81-4 の系列といえる作品で、4 手目が主眼です。n 飛の細かい動きもあり、3 作の中で一番難しくなりました。

【解説】

中立龍と中立馬の両王手による空中捕捉。

支え駒がない中立龍を取れないのは、Imitator の働きです。手順中で重要なのは 4 手目 99n 馬[I88]の大移動。ここで八段目まで Imitator を運ぶことで、最終的に Imitator が九段目に来るので、35 玉とは逃げられません。Imitator は二重の意味で、この空中両王手の詰上りを支えているのです。

両王手と大移動が主題とはいえ、これは大味な作品ではありません。

初手と 2 手目は中立飛と Imitator の位置調整。2 手掛けて両者を右に 1 マスだけずらします。6 手目には Imitator を合駒の代わりに使う手筋が用いられています。

巧妙な小技で前後を固めることにより、大移動と両王手の大技が一層映えているのです。

また、本局を鑑賞するにあたって、重要な概念に「不可逆な着手」(相手の手番で直前の局面に戻せない着手)があります。

中立駒はどちらの手番でも動かせるので、せっかく動かした中立駒を元に戻す着手が可能な場合があります。それを防ぐのが「不可逆な着手」です。本局では最終手の「成」が不可逆な着手に該当します。

「不可逆な着手」は「成」(成った駒は生駒には戻せない)、「打」(打った駒は駒台に戻せない)、「取」(取った駒は相手の駒台に戻せない)の 3 つがあります。このうち「取」は駒余りになるので、「駒余り可」のルールでないと最終手には使えません。「打」は前回 WFP133-2 で、占魚亭氏自身が使っていますね。

中立駒以外にも局面を元に戻せるルールはあるので、そのようなルールで作られた作品を見たら、「不可逆な着手」に注目してください。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

鮮やかな両王手。

占魚亭さん

シリーズ 3 作の中で一番気に入っています。n 飛の細かい動きに IM&n 馬の大移動が入って難度が高く、正解者は出そうにありませんね……。

☆残念ながらこの予想は当たってしまいました。

大駒の中立駒 2 枚と Imitator が膨大な紛れを生んでいるので、やむを得ないと思います。

たくぼんさん (※無解)

いろいろやってみましたがらしい手順が見つかりません。



■ 134-2 神無太郎氏作（正解3名）

点鏡協力自玉スタイルメイト 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
							王	三
								四
			王					五
								六
								七
								八
								九

攻方持駒 騎
受方持駒 残り 全部+騎3
※騎: Kni ght

【ルール】

• 協力自玉スタイルメイト

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト（王手は掛かっているが合法手のない状態）にする。

• 点鏡

55 に関して点対称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

（補足）

• 行き所のない駒の禁則は適用されない

→初出：第 108 回 WFP 作品展（WFP127 号）

• Knight（騎）

チェスの Knight。八方桂。

	○		○	
○				○
		騎		
○				○
	○		○	

（○が騎の利き）

【解答】

63 騎 47 角 36 騎 74 飛 76 騎 34 角
67 騎 43 飛 まで 8 手

（最終形）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								一	
						飛		王	三
		飛				馬			四
				王					五
									六
			騎		馬				七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

「55 から見て八方桂の位置に駒を置いて、各々の利きで一筆書きができるようにしてください」。本局を文章に直すところになります。

まずは出題図を分析しましょう。この手数では玉を動かす余裕はありません。Knight（騎）の王手を続けながら、点鏡効果で駒を発生させ、13 王を包囲するしかなさそうです。冒頭で挙げた「八方桂の位置の一筆書き」の条件はここから生じます。

次は何をどの順番で出すか考えます。

手数を考えると騎を消す暇はなさそうです。となると、鍵となるのは最終手。騎を消さずに動きを止めるには、ピン止め効果を使うしかありません。性能変化ルールのピン止め効果を使うとすれば、騎をピン止めする駒は、本来の利きで攻方玉を睨んでいなければなりません。また、駒の効率を考えると、騎をピン止めする駒は玉の包囲に役立ってなければなりません。この二条件を満たすのが 43 飛・67 騎の組み合わせです。

この最終形を想定すれば一筆書きの終点が定まります。「34・36・43・47・63・67・74・76」のうち、将棋の駒の利きで 4 点を結び、43 を終点とした経路を求めましょう。すると本局の最終形のように飛と角を繋いだ 47→74→34→43 の経路が浮かび上がります。

34 角を 34 銀に替えても一筆書きは可能ですが、それでは 13 王を包囲できません。12 に利かすため 34 の駒は角に限定されるのです。

騎は 55 に関して点対称な経路を描くので、一筆書きの直前の手に騎の位置を書き加えれば、正解手順の出来上がりです。

点鏡は駒の軌跡を駒の配置に置き替えられ

るルールなので、軌跡趣向と曲詰の両要素を兼ね備えた作品が創作可能です。本局はそれに加え、一筆書きのパズル要素も加わっています。駒の動きの楽しさ、視覚的美しさ、謎解きの三要素が共存する作品です。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

先手の指し手が全て騎なのは素晴らしい。
最終形43は騎だったんですね。

占魚亭さん

滑らかな騎の一筆書き。
「太郎の氾濫」13-1・13-3が参考になりました。

☆「第13回神無太郎の氾濫」の解答はWFP159号に掲載されています。神無太郎氏の作品の解図で行き詰まったら、過去の「神無太郎の氾濫」を読み返すとヒントがあるかもしれません。

たくぼんさん

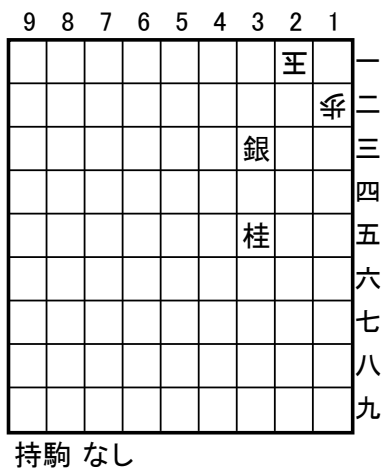
大駒4連打は見たことがない手順です。
すごい！

テイエムガンバさん

騎で王手したい先手と点鏡効果をフル活用して王手から逃れようとする後手の戦い。

■ 134-3 藤原俊雅氏作（正解7名）

a) 協力詰 3手



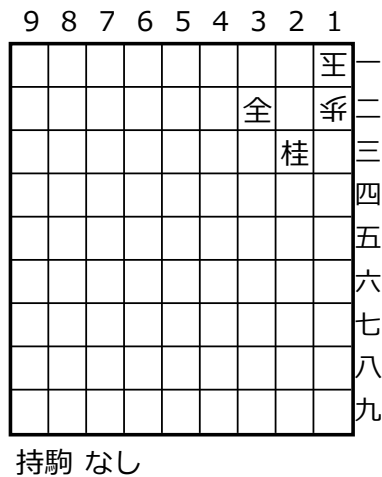
b) 協力詰 3手



【解答】

a) 32 銀成 11 玉 23 桂生 まで 3手

(詰上り)



b) 32 銀生 22 玉 23 桂成 まで 3手

(詰上り)



【作者のコメント】

a)が成～生、b)が生～成という対比です。

このテーマの最小駒数かもしれませんね。

【解説】

12歩は切替スイッチ。

これがどちらを向いているかで「成・生」と「生・成」が切り替わります。成と生を演じ分けるのは銀と桂で、各々が動く位置も順序も変わりません。

作者はこれがこのテーマの最少駒数と予想していますが、その可能性は高いと思います。

このようなペアを作る時、難しいのは「成・生」の組み合わせです。手順の途中なら「玉の移動を阻害しない」とか「特定地点への利きを確保する」という意味付けの不成が可能ですが、最終手の不成は「王手のため」に意味付けが限定されます。それができる駒も銀と桂だけです（最終手香生は駒取りを伴います）。

従って、攻方駒の組み合わせは「銀と何か」「桂と何か」しかありません。仮に玉と攻方駒2枚で実現しようとするれば、その組み合わせは「桂と飛」になります。では、その組み合わせで飛不成から始まる3手詰が作れるのでしょうか？ 絨毯爆撃的手法で調査を行えば結論は明確になるとは思いますが、そこまで行う必要はないでしょう。

なお、本局と同じ使用駒数4枚としたとき、銀の最終手不成で同じテーマを実現できるかどうか興味深いところです。読者の皆さんもぜひ一度考えてみてください。

【短評】

変寝夢さん

回文詰を作るような感覚なのかな。ルールに非連続王手を追加した方が生、成のパターンも加えることができそう（着手位置は変わるが）。相当難しそうだけど。

占魚亭さん

成生の対照が分かりやすいので、ツインを説明する時の例題にぴったりかも。

springsさん

完璧な成生対比を歩の向きの違いだけで実現。

一乗谷酔象さん

銀と桂の成/不成と玉位置の対比をシンプルに表現。

たくぼんさん

1つ1つの作品としては弱いけど12歩の向きで成と不成は面白い。

テイエムガンバさん

成から生と生から成の対比。

はなさかしろうさん

棋譜のコントラスト。

■ 134-4 藤原俊雅氏作（正解7名）

協力詰 4手（3解）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						歩			二
				王	歩		飛		三
				桂	桂		雫		四
				飛		馬	桂	雫	五
				雫	銀				六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

【解答】

A) 23金 62桂成 43玉 52飛成 まで4手
(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
									一	
				圭	龍		歩		二	
						王		雫	三	
						桂			四	
							馬	桂	雫	五
						雫	銀			六
										七
										八
										九

攻方持駒 なし
受方持駒 飛歩

B) 35金 42歩成 44玉 43飛成 まで4手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
					と	歩			二
					龍				三
				桂	王				四
				飛		受	桂	毎	五
			銀						六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 角桂

C) 55 銀 52 桂成 54 玉 53 馬 まで 4 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
					圭		歩		二
					馬	歩		飛	三
					王			受	四
					銀			桂 毎	五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 飛桂

【作者のコメント】

「Battery の破壊」は Helpmate では結構見られるのですが、詰将棋では珍しいと思ったので作りました。

Battery が A、B、C の 3 本ある形で、破壊される Battery と開く Battery の対応が A-B、B-C、C-A という Cycle になっている 3 解です。

初手の意味付けが pure になっているのが地味ながら作者のこだわりで、Self-block にならないように注意して作図しています。

【解説】

取れよ、さらば開かれん。

攻方手番なら三種の開き王手が可能な初形。しかし、どの開き王手を選んでも 3 手では詰みません。原因は玉の自由度の低さにあります。

開き王手が可能ということは、開く駒には別

の駒の利きがあるということです。つまり、その場所には玉が動けません。これが攻方手番だと 3 手で詰まない原因です。

幸い受方に手番が与えられているので、その一手を使って原因を除去します。それが「バッテリー（開き王手が可能な形）の破壊」です。

開き王手の軸となっている駒を取ってしまえば、玉がその方向に動けるようになり、残った開き王手で詰められるというわけです。

24 金でバッテリーを破壊する A と B に対し、C だけは 66 銀でバッテリーを破壊するので、少し無理をしている感がありますが、壊れるバッテリーと使えるバッテリーのサイクリックな対応関係に作者の様式美へのこだわりが感じられます。作者コメントの Self-block は自玉の可動域を塞ぐ手のこと。各解の詰上りで、初手に動いた駒を取り除いても、ちゃんと詰んでいることを確認してください。

【短評】

変寝夢さん

a 23 金、62 桂成、43 玉、52 飛成まで 4 手

b 35 金、42 歩成、44 玉、43 飛成まで 4 手

c 55 銀、52 桂成、54 玉、53 馬まで 4 手

c の解は余分な気がした。

解を加えるなら初手は 34 金、25 金、14 金の内で作りたい。

☆C だけ初手に別の駒が動くので、無理に付け加えたように見えますね。同様の感想は他の方からもありました。

占魚亭さん

受先利用のサイクルジラヒが狙いでしょうか。23 金の順だけ詰上りで大駒の支えが重複しているのが（仕方がないとはいえ）残念。

springs さん

根元を取って玉を逃がす×3 種。

「初手に取られる駒→詰まず駒」の関係で Cyclic になっていると思いました：55 飛→35 馬→23 飛→55 飛。

一乗谷酔象さん

3 方のバッテリーが強力。

初手でその一角を崩す。

たくぼんさん

初手 55 銀の手順が対比になっているのかどうかがよく分からない。

テイエムガンバさん

1 手目の対処によりまったく別の 3 解となる趣向が作品に味を持たせている。

はなさかしろうさん

駒数に幻惑されましたが、大駒をひとつずつ。

■ 134-5 上田吉一氏作 (正解 5 名)

協力詰 5 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									皇
									砲
飛									
		銀	王						
						王			

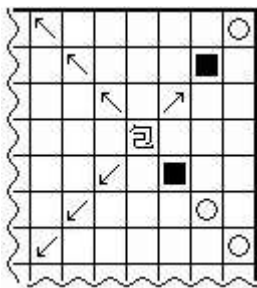
持駒 砲
※砲: Vao (角利きの包)

【ルール】

• Vao (砲)

フェアリーチェスの Vao。

中国象棋の Pao の利きの方向を角にしたもの。取らずに動く時は角と同じ。駒を取る時は角の方向に 1 枚だけ駒を跳び越えて動く。



(矢印が Vao の動く方向。○は Vao が駒を取る時の利き。■は敵または味方の駒。駒を 2 枚跳び越すことはできない。)

(補足)

・今回は Pao と区別するため「包」の代わりに「砲」と表記する。

【解答】

22 砲打 同馬 44 飛 55 砲 46 飛 まで 5 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									皇

持駒 なし

【解説】

持駒譲渡の高級手筋と、両王手の大技がわずかに 5 手に凝縮された作品。

本局、「55 砲打 44 合 同飛」で合駒を稼ぐような俗筋では詰みません。筋の良い人なら Vao (砲) を使った両王手が浮かぶと思います。実際それは「44 飛 55 合 46 飛」で実現できます。

しかし「両王手」は「詰」と同義ではありません。合駒をきちんと読むと、この手順では詰まないことが分かります。

歩合だと 56 歩で逃れ。前に利く他の合駒も同様。桂合だと逆王手。角合だと 46 角で飛を取って逃れ。適切な合駒がありません。

いっそ利きのない駒があれば良いのに……と思うところですが、その代わりとなる駒がありました。持駒の「砲」です。

砲は角に近い性能を持ちますが、駒を跳び越えないと駒を取れないので、「46 砲」と飛を取ることはできません。利きのない駒の代わりになるのです。砲を受方に譲渡して合駒して貰いましょう！

砲を渡せる場所は 22 のみ。他の場所では両王手の機構を維持できません。

かくして持駒譲渡からの両王手という驚きの手順があっさり実現しました。作る立場から見るとこの凄さが一層良く分かります。

なお、11 馬が 11 金などでない理由は「44 飛 55 飛 74 飛 95 飛 44 砲打」のような余詰を防ぐためです。ホッパー系の駒の重ね打ちは強力なので、それを利用した作も多いのですが、逆にそれを防ぐのは大変です。本局は駒種を馬にするだけで余詰を防いでおり、効率の良い配置だと思います。

【短評】

変寝夢さん

初手から44飛が可能であるところがポイント。

占魚亭さん

砲を渡すのがポイントですね。

springsさん

どの55合もうまくいかないと思ったら砲があったとは。取っ付きやすく楽しめました。

一乗谷酔象さん

一見3手詰に見えたが適当な合駒がない。46,47,56に効かない55合は？

たくぼんさん

砲を後手に渡す順や飛の動きなど濃密な手順。

はなさかしろうさん

両王手を工夫して実現しました。楽しい。

■ 134-6 上田吉一氏作 (正解3名)

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



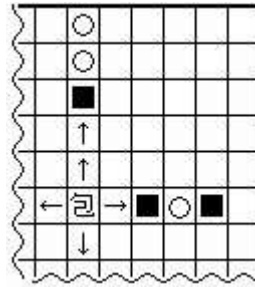
持駒 なし

- ※包: Pao(象棋の包)
- 砲: Vao(角利きの包)
- 夜: Night rider

【ルール】

• Pao (包)

中国象棋の駒。動くときは飛車と同じ。駒を取るときは必ず一つ駒を飛び越えて取る。



(■は敵か味方の駒。○は取るときに動ける場所。矢印は駒を取らないときに動ける場所。)

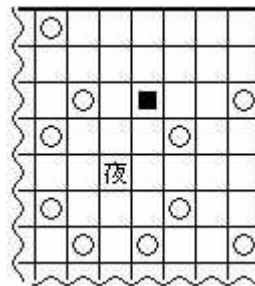
(補足)

- 飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- グラスホッパーと違って着地場所は飛び越えた駒の隣でなくてもよい。
- 成ることはできない。
- 2つ以上の駒は飛び越せない。

• NightRider (夜)

フェアリーチェスの NightRider。

ナイトの利きの方向に連続飛びができる。



(○がナイトライダーの利き。■に駒があるとそこから先には利かない。)

【解答】

55 砲 76 玉 44 砲 66 玉 55 夜 まで 5手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 なし

【解説】

3種のフェアリー駒が使われている本局、それだけで白旗を揚げた方もいるかもしれませんが、でも、こんな時には多少ずるい解き方も許されるでしょう。詰上りにすべての駒が関与する

と仮定するのです。

Pao (包) の横利きと、Vao (砲) の斜めの利きを両方活かすには、その焦点に何か駒を置かねばなりません。焦点の 55 は NightRider (夜) がちょうど跳べる位置です。この手数では受方玉も 2 回しか動けないので、空中で捕まえるしかありません。以上の条件を考慮すれば、砲の斜めの利き、包の横方向の利き、夜の駒としての利き、攻方玉の利きをフル活用した本局の詰上りを想定することができるでしょう。

ただ、その形を目指す上で、見えにくい手が一つあります。それが 2 手目 76 玉。夜と砲のバッテリーに入る手ですが、夜の中途半端な傾きの利きに慣れていないと、ここで開き王手ができることになかなか気づかないと思います。初手 55 砲は、包の利きを活かすと同時に、夜の利きを止めていたわけですね。

手順を見直すと包・夜・砲が各 1 回ずつ王手を掛けており、すべてのフェアリー駒に平等に活躍の場が与えられています。複数のフェアリー駒を使う超短編を作る時、参考になる構成だと思います。

【短評】

変寝夢さん

3 種の駒によるフェアリーメイト。

初手で 1 3 Nr の利きを消している所が、面白い。

占魚亭さん

数年前に包と砲の併用を試したものの上手くいかなかったので、勉強になりました。フェアリー駒 3 種を見事に活かしていて流石です。

たくぼんさん

3 種類の駒の合体詰上りを探す手順は楽しかった。

はなさかしろうさん

詰形を決め打ち予想しましたが 2 手目合の紛れからなかなか離れられませんでした。接近戦になるのになぜ駒でなく夜なのだろうと思っていましたが、なるほど面白い駒種です。



■ 134-7 変寝夢氏作 (正解 6 名)

協力自玉詰 4 手

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																			一
				王					王										二
																			三
																			四
																			五
																			六
																			七
																			八
																			九

持駒 角
※持駒角は根津角

【ルール】

• 根津駒

駒が一手の間に方向を変えて一回ずつ動く。

(成駒は適用対象外)

(補足)

- 1) 一回目の移動では動くことのみ可能で、駒を取ることはできない。
- 2) 一回目と二回目は別方向に動かなければならない。二回目は駒取りができる。
- 3) 根津駒を打つ時は打つだけで一手とみなす。一手の間に「根津駒を打って、その駒を動かす」のは禁止。
- 4) 成りは、一手の間に敵陣に入る・出る・敵陣内を移動したときに成ることが出来る。成ると普通の成駒と同じ動きをする。(二回動くことはできない)

• 協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方玉を詰める。

【解答】(※根津角の着手は経由箇所も付加)

13角 24飛 22-11角生 22金 まで 4手

(詰上り)

									角	一
			王					零	王	二
										三
								継		四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし
※角:根津角

【作者のコメント】

今回のテーマは根津角です。根津飛車を角にしました。成は始点を含め可成位置を通過していればOK。成ると単なる馬の動きです。両方とも初形がアレですが、まあ夏なので・・・。

(本局について)

初手が狭く(両王手の位置は手数的にない)、強い駒を合するので難易度はそれほどでもないとは思いますが、けったいな駒ですねえ。

【解説】

WFP104-11 で登場した「根津飛車」の一般化。本局と次局ではこれを角に適用した「根津角」が使われています。

「根津角」は「根津飛車」から、「2回動く」「1回目と2回目は違う方向に動く」「駒取りは2回目だけ許される」「成ると本来の性能に戻る」という4つの性質を取り出し、角に適用したものです。この4つの性質は銀や桂にも適用できます。金に対しても細則4) (「成」に関する規定) を無視すれば適用可能ですし、玉に対しても3) (「打」に関する規定) と4) を無視すれば適用可能です。

なお、**WFP104-11** では「元からある飛車が根津飛車の性能になった」という設定でしたが、本局では「元の角は角のまま、新たに根津角が加わった」という設定になっています。本作品展では特に断りがない場合、根津駒を「新たに加わったフェアリー駒」として扱います。従

って、成った根津駒が取られたとき、根津駒としての性質が維持されるかどうか明示する必要がありますが、今回の出題時はそれが抜けていました。根津駒としての性質が維持される方が自然なルール設定だと思いますが、次回からは細則で明示したいと思います。

ルールの話はこれくらいにして、次は根津角の特徴を考えましょう。

一番の特徴はその利き筋。曲がった利き筋は単に「変な駒」で片付けるわけにはいきません。**WFP59-2** (WFP第67号) で登場した **Rose** を思い出してください。これは曲がった利きを持つため、一枚の駒で両王手(多重王手)をすることが可能でした。逆に言えば、うっかり両王手を掛けてしまうと、合駒出来ません。これは協力自玉詰では都合の悪い性質です。盤上に配置された駒を盾にするか、盤端を壁として利用して、なるべく両王手を避けましょう。

もう一つの特徴は「曲がる前の合駒は取れない」ことです。これは「駒取りは2回目だけ許される」という性質の裏返しです。協力自玉詰では都合の良い性質ですね。通常の協力自玉詰では最終手に合駒で詰める場合、その合駒が取られないよう、特殊な状況を作らねばならないのですが、根津角だとその心配はありません。曲がる前の場所に合駒すれば良いのです。合駒を取られる心配をしなくて良いという性質は、ホッパー系のフェアリー駒と似ていますね。

以上から「両王手を掛けないよう注意しながら、取れない合駒で自玉を詰める」という解図方針を立てることができます。

初手13角はその方針に沿った着手。15角と打ってしまうと24飛の合駒が出せません。51地点を経由した王手だけでなく、26地点を経由した王手も掛かってしまい「両王手」となるからです。

13に角を打つと、次の王手が難しそうですが、これはただの角ではなく根津角です。22経由で11に動けば、11を埋めると同時に44地点を経由して王手を掛けることができます。この時、角を不成で使うのが重要なポイント。角を成ってしまうと普通の馬になり、王手になりません。王手を掛けるための不成は銀桂香で見られますが、根津角でもそれができるのです。

本局には2回の合駒が登場しており、どちらも「曲がる前の合駒」です。合駒の種類は飛と金。協力自玉詰では割と一般的な組み合わせで

すね。初見のルールでも、否、初見のルールだからこそ基本は重要です。

【短評】

占魚亭さん

詰み形はこれしか考えられません。
 ※表記方法が分からなかったのので、出発地点-中間?地点-着地地点を書いてみました。

☆分かれれば何でも良いのですが本稿では f m の獅子の表記に準じて、経由地と着地点をハイフンで繋ぐ表記法を使ってみました。

springsさん

「段+筋=偶数」の市松模様のマスにしか合駒が発生しないことに気付いて詰みの形が見えました。

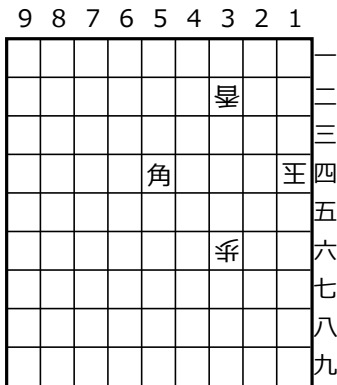
一乗谷酔象さん

二方向の王手にならないよう着手を絞る。

たくぼんさん

たとえば根津角がある地点に移動するのに経路が2つある場合は非限定になるのでしょうか？

☆今のルール設定だと非限定にせざるを得ないと思います。「成」の可否が現位置と移動先だけでなく、経由地でも決まる「通過成可」の設定だからです。以下の図で説明します。



持駒 なし
 ※54は根津角

この図で王手を掛けるとすると「34 根津角」になりますが、その経路は「54-45-34」と「54-43-34」の2つあります。従って「34 根津角」と「34 根津角生」の2つの王手が生じ、非限定となります。根津飛車の場合は、現位置か移動先が可成地域内なら、経由地も可成地域

内なので、この種の問題は起こらなかったのですが、他の駒に適用する場合にはこの問題は無視できません。可成地域に出入りできない場合は、複数経路があっても非限定としないとする案もあると思いますが、やや不自然なルール設定にも思えます。

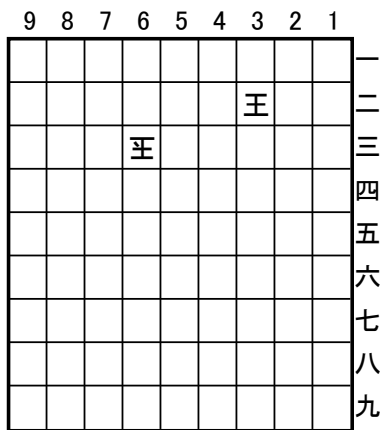
これをどのように扱うにせよ、現在の根津駒のルールは、より厳密に整備する必要があると思います。

はなさかしろうさん

盤端利用をあれこれ試しました。

■ 134-8 変寝夢氏作 (正解6名)

協力自玉詰 4手



攻方持駒 角
 受方持駒 飛2
 ※持駒角は根津角

【解答】

14角 36飛 43王 41飛 まで 4手
 (詰上り)



攻方持駒 なし
 受方持駒 なし
 ※角:根津角

【作者のコメント】

根津角使用で開き王手をしてみました。

【解説】

根津角の遠打と自玉が動く詰上り。

本局もまた盤端の着手、14角から始まります。自玉が盾になるので23角でも両王手を避けることはできるのですが、作意同様に「23角 34飛 43王 41飛」と進めたとき、「34王」で飛を取ってしまいます。「盤端の角」は根津角の手筋なのですが、この場合は両王手を避けるためではなく、遠くに合駒できるようにするのが目的です。つまり初手は遠打の一種なのです。

2手目飛合は逆王手になるので指しにくい手ですが、これこそ作者の狙いの一環。その直後に自玉を動かさず開き王手が眼目の一手です。根津角は二方向から王手ができるので、一方を止めても他方で開き王手が可能です。

受方はこれにも飛合で応じます。場所は41。根津角の利きのちょうど曲がり角です。曲がり角は一回の移動で行ける場所なので、根津角で取ることはできません。従ってこれで詰みとなります。

改めて手順を見直すと、何と全着手が王手。わずか4手とはいえ、双裸玉で全着手王手は珍しいと思います。

【短評】

占魚亭さん

根津角の利きを塞ぎつつ飛車2枚で詰ますなら、この形。

springsさん

生飛車2枚で詰む？と思いましたが、開き王手ができるんですね。

一乗谷酔象さん

4手連続の王手。
玉と根津角1枚でできるんだ。

たくぼんさん

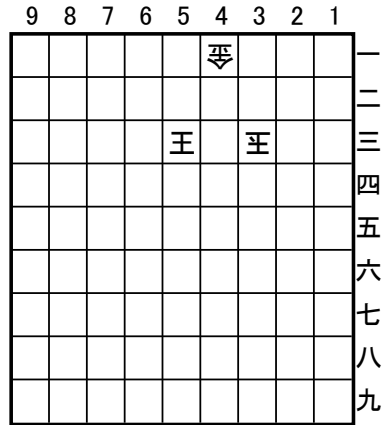
すごく不思議な感覚にとらわれます。
フェアリーの楽しみの1つ。

はなさかしろうさん

空き王手もできるんですね。

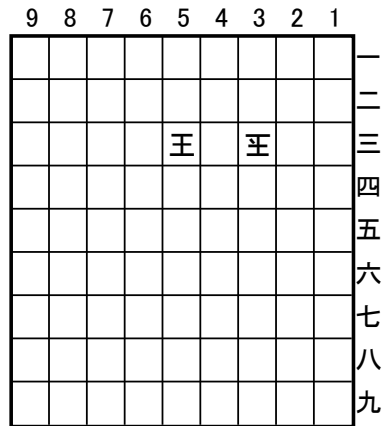
■ 134-9 高坂研氏作（正解5名）

a) 天竺協力詰 3手



持駒 なし
※透明駒: 攻方1枚、受方1枚

b) 天竺協力詰 3手



持駒 なし
※透明駒: 攻方1枚、受方1枚

【ルール】

•天竺
玉(王)の利きが王手をした駒の利きになる。

•透明駒
位置・種類が不明の駒。
着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照: WFP83号「透明駒の紹介」

【解答】(※持駒が加わる場合括弧内に+で表記)

a) 61 王(+桂) 31 玉 23 桂 まで 3 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			王	王					一
									二
X	X	X	X					桂	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※Xに飛(龍)が居る可能性がある

b) 51 王(+香) 32 玉 33 香 まで 3 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				王					一
								王	二
X	X	X	X					香	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※Xに飛(龍)が居る可能性がある

※余詰 : 2 手目から 22 玉 23 香 まで 3 手

【作者のコメント】

いずれも初手の玉の動きで、駒取りが証明できる。尚、b)で先手玉が取った駒が飛だとすると、初形で後手玉に王手がかかっていたことになり illegal。又、b)で 61 玉とすると後手の透明駒が 41 桂だった可能性もあるので、2 手目の時点でこの手が駒取りだったとは断言できない。よって 3 手目 X としか表記できず、4 手目 23 玉で逃れ。

【解説】

駒の有無だけで手順が変わるツイン。性能変化ルールで透明駒を使う場合、可視駒

が本来の性能と異なる動きをすることで、透明駒の影響を受けていることを主張できます。

天竺では性能が変化するのは玉だけなので、玉が玉にできない動きをすれば、透明駒の駒種が何か分かります。場合によっては、その位置さえも特定できます。

a)では攻方玉が桂の動きをすることで、初形に透明駒の 61 桂が潜伏して王手を掛けていたことが確定します。攻方には王手義務がありますが、透明駒の飛か龍が 63~93 にいれば開き王手になるので、攻方玉が動く手でも攻方王手義務を満たすことができます。飛か龍で受方玉に王手をしていることから、受方玉も飛(龍)の性能になり、詰み易い 31 に飛ぶことができます。仕上げは 23 桂。天竺らしい、玉を弱い駒にする詰上りです。ただし、間違っても桂を 43 に打ってはいけません。23 玉と逃げられてしまいます。

b)は 41 金がありません。ぱっと見 a)と同じ手順で詰みそうに思えますね。でも、そうではありません。b)で初手 61 王としても、透明駒の潜伏場所が 41 である可能性があるため、持駒に桂が加わらないのです。a)で 41 金が配置されているのは、桂が王手できる場所を 61 に限定するためだったのです。

そこで b)は攻め方を変えます。桂の入手はできませんが、41 金が消えたことで、今度は攻方玉が香の動きをすることが可能になっています。それが初手 51 王。これで透明駒の 51 香が潜伏して王手を掛けていたことが確定します。王手を掛けていた駒が飛である可能性はありません。飛だと飛の性能になった攻方玉が受方玉に王手を掛けていることになります。こうして天竺では最も便利な詰駒である「香」を手に入れ、63~93 にいるはずの飛(龍)の利きを支えに、頭香を打って詰ますことができます。

当初はここで解説を終える予定だったのですが、残念ながら b)に一失あり。攻方透明駒が龍だった場合、2 手目 22 玉も可能です。筆者もこの解説の下書きで「63~93 にいるのが飛でも龍でも同じ」と書こうとして、初めてこの手順の存在に気付きました。作者に問い合わせたところ、b)はボツにするとの回答がありました。ちょっと勿体ない気もしますが、無理に修正しないのも一つの選択だと思います。

【短評】

変寝夢さん

- a)最終手 4 3 はだめなのが良い
- b)初手 2 歩進むことで、飛か香に限定されるがそこから香への限定の仕方が作者らしい。

占魚亭さん (※b)双方解)

開き王手して受方の透明駒を取るしかないと考え、何とか捻り出しました。

- b) (2 手目 22 玉、23 香までも成立している気がします)

一乗谷酔象さん (※b)双方解)

逆王手の駒を取り逆用。
一方が余詰むのは惜しかった。

たくぼんさん

- a)金配置は桂を取れるかどうかを確定させるのか。
- b)51 飛がダメなのはいい。

はなさかしろうさん

可視化は強力ですね。41 の金がぴったり。

■ 134-10 高坂研氏作 (正解 3 名)

安南協力詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							王		二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛
※透明駒: 攻方2枚、受方0枚

【ルール】

- 安南
味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【解答】

24 飛 11 玉 32 飛成(X=23、25 桂) まで 3 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
						龍			二
							桂		三
									四
							桂		五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

これで 23 と 25 に透明桂がいることが証明できている筈。

ちなみに 1+0 だと 33 飛、13 玉、23 飛成迄の余詰が生じるが、2+0 なので 34 透明金の下に 35 透明歩などがあれば 4 手目同玉で逃れ。

「飛打で王手しているにも関わらず、王手をかけている駒は飛ではない」というのに面白みを感じて作図したが、作者の独りよがりかもしれない。

【解説】

一般に安南と透明駒の組合せは、天竺と透明駒の組合せよりも難しくなります。

天竺で性能変化を考えないといけないのは玉だけでしたが、安南はすべての駒で性能変化を考慮しなくてはなりません。

これだけでも厄介ですが、透明駒が複数の場合は更に厄介です。透明駒と可視駒の間の影響だけでなく、透明駒と他の透明駒の間の影響も考えねばならず、紛れが膨大になるからです。

例えば「33 飛 12 玉 11 飛成」という紛れを考えてみましょう。初手と最終手で 34 角の存在が確定。従って 23 桂の存在も確定し、これで詰み…とはなりません。23 桂の代わりに 35 歩が透明駒として潜伏している可能性があるからです。この場合、最終手に「23 玉」という受けがあります。作者のコメントにあるように、「33 飛 13 玉 23 飛成」も 35 に歩が潜伏していると詰みません。透明駒の性能を透明駒で変えることができるので、それらしい詰筋が全部消されているのです。透明駒が 1 枚なら簡単に詰むのに、透明駒が 2 枚あるせいで詰まないため、透明駒が邪魔駒に感じられますね。

そんな膨大な紛れの中で成立しているのが、本局の作意。特に最終手 32 飛成は鮮烈です。

この 32 飛成は一瞬何をやっているのか分かりませんが、飛が桂の動きをすることで、25 桂の存在が確定。すると、初手は飛による直接王手ではなく、23 の透明駒を飛に変化させた間接王手だったことになります。初形で受方玉に王手は掛かっていないはずなので、23 は角か桂。最終手は王手のはずなので、角の可能性が消え、桂に確定します。たった一手で 2 枚の透明駒が姿を現し、見事に詰まりました。

本局の面白いところは初手 24 飛が直接的な王手のように見えて、実は性能変化を利用した間接的な王手だったということ。透明駒が透明な状態で盤上に残る作も味がありますが、透明駒が可視化されることで、意外な事実が浮かび上がります。作意を見つけたときの感動もひとしおでしょう。

【短評】

変寝夢さん

飛車を 3 4 や 1 4 または玉の斜めより打つ紛れが多く苦戦。

作意では 2 5 桂が判明してから 2 3 桂が判明するところが面白かった。

最終手、今の今まで 1 2 飛成としていた (2 3 の駒は角)。2 3 桂でも 1 1 に逃げる事は可能なんですね。

占魚亭さん

最初、31 や 33 に打つ筋を追っていましたが上手いかず WFP128-9 のパターンかもと考え、捻り出しました。

飛の跳躍で攻方透明駒 2 枚が瞬時に確定。美しい。

一乗谷酔象さん (※誤解)

33 飛 21 玉 13 飛成 まで 3 手。
盤上に龍 2 枚が現れて決まった。
2 枚目の透明駒の七変化に苦戦。
透明駒 1 枚なら簡単なのである意味 2 枚目は邪魔駒かも。

☆この手順は透明駒が「34 龍・12 歩」のような組み合わせなら詰みますが、34 龍の代わりに 32 桂や 32 角の可能性もあるので「31 玉」で詰みません。

たくぼんさん (※誤解)

13 飛 11 玉 31 飛成 迄 3 手
これは悩みました。13 飛、12 玉、54 角の筋がらしかったので・・・

☆「13 飛 11 玉 31 飛成」は 21 合で不詰。透明駒はただでさえ錯覚を起こしやすいですが、性能変化ルールでは更にその傾向が強くなります。強豪解答者お二人の誤解はこのルールの難しさを物語るものだと思います。

はなさかしろうさん

紛れをなんとかかかいくぐったつもりですが…透明駒の魅力を正面から扱う手順で、かえって意表を衝かれました (!?)

■ 134-11 青木裕一氏作 (正解 7 名)

Koko協力詰 7手

										一
										二
						王		王		三
						歩	歩	歩		四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 桂2

【ルール】

• Koko

着手は、そのまわりの 8 マスに何らかの駒が存在するような地点のみ有効。

(補足)

- 王手にもこの条件は適用される。玉を取っても周りに駒がない場合、王手とみなされない。

→参照：WFP42 号「Koko について」

【解答】

25 桂 同歩 22 王 15 歩 14 桂 同玉
13 王 まで 7 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
								王	三
						糸		王	四
						糸	糸		五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

王による単騎詰が狙いです。

(ライトな) フェアリー短編コンクールはこれと迷いました。

【解説】

孫氏の兵法「三面包囲」。敵を追い詰める時にわざと逃げ道を用意する戦術のことですが、本局は詰将棋でそれが見られる作品です。

まず初手を考えましょう。22 王がいかにも Koko らしい手なので、つついやってみたいくなります。でもこれには 12 玉と受けられて全然詰みません。

これを打開する手段が「25 桂 同歩」の 2 手。この狙いは 12 玉とされたとき、24 桂の打ち場所を作ることではありません。例えば「25 桂 同歩 22 王 12 玉 24 桂 21 玉」と進めたとしましょう。続けて 12 桂成や 32 桂成とすると、その途端「孤立禁」の状態が解けて、白玉への王手となります。「25 桂 同歩」の 2 手を挟んでも、12 玉とされると詰まないのです。

「25 桂 同歩」の狙いは別にあります。

この 2 手で玉の周囲の駒が 2 枚から 1 枚に減るので、22 王に対して 15 歩と受けることができます。「一手で 1 枚は動かせるが、2 枚は動かせない」。当たり前過ぎて忘れられがちですが、フェアリーでは将棋の基本的なルールを思い出さねばなりません。

この 15 歩のように Koko では王手を掛けられたとき、玉周辺の自駒を逃がす受けがあります。これを小林看空氏は「水蜘蛛返し」と命名しました (WFP42 号参照)。逆に相手玉の周辺に駒を打つことで、それ自体は王手を掛けず、他の駒の王手を有効にする手筋を「水蜘蛛」と

呼びます。

本局の 4 手目 15 歩は「水蜘蛛返し」で、5 手目 14 桂が「水蜘蛛」です。この両方が出ると手順に Koko らしさが生まれます。

こうした Koko 特有の手筋を使って局面を打開し、最後は玉の背後から攻方玉で王手を掛けて詰み。玉の周囲には既に二枚の駒があるので、今度こそ「水蜘蛛返し」の受けはありません。攻方玉を取る手は「孤立禁」に抵触するため不可。他の移動先候補には攻方玉の利きがあり、その周囲に駒があるので移動不可。さりげなく置かれた 34 歩が 23 玉の受けを消しています。

本局は単騎詰を狙いとして作られた作品ですが、いきなり単騎詰を狙うと詰まず、わざと逃がすような手順を経てその狙いを達成します。解答者全員正解で、「Koko 版・三面包囲」を堪能していただけたと思います。

【短評】

変寝夢さん

3 手目 2 2 玉が見えず、一苦労。

初手 2 2 玉には 1 2 玉がありましたね。

占魚亭さん

第一感ではあるけれど、頭 2 手がいいですね。

springs さん

どうやって後ろに回り込むか。

Koko らしい手の連続で楽しめました。

一乗谷酔象さん

端玉には端玉の攻めが決まった。

たくぼんさん

王で王手にびっくりですが、Koko なら定跡になるのかな。

テイエムガンバさん

先手の持駒が銀桂や桂歩でも同様にして詰むが、桂 2 枚とすることで、5 手目の 14 桂打が盲点となる。

はなさかしろうさん

12 に行ってしまうとどうにもなりません。

【総評等】

変寝夢さん

全体的に難易度は低めだと思う。
2の詰め上がりの美しさが印象的。

たくぼんさん

結局、1問解けず。
結構時間はあったのになあ。

☆今回は全体的な難度は低めでしたが、全題正解には大きな壁が立ちはだかっていました。全題正解を狙うなら **Imitator** の特訓が必須でしょうか。

☆次に業務連絡です。**fmza** に最善詰の長手数余詰を検討する機能が追加されました。これまで **fmza** には最善詰の長手数余詰を検討するための特別な機能がありませんでした。そのため長手数余詰を検討するには、詰方で作意以外の着手をした局面を作り、一つ一つ不詰を確かめる必要がありました。しかし、最新版で **fmza** に「/EXXD」というオプションが追加され「最短手順を作意とみなし、作意以外の詰方の着手をした局面が指定手数以内に詰むかどうか」を自動で確かめられるようになりました。最善詰用のメモリの再利用処理がないため、検討が難しいと途中で打ち切られるという制約はありますが、大変便利な機能です。近日中に **Onsite Fairy Mate** で公開予定ですので、ぜひご活用ください。

以上



推理将棋第144回出題(10/15 修正)

担当 Pontamon

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第144回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの? - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2021年11月10日までに TETSU まで

(omochabako@nifty.com) メール の 題名は「推理将棋第144回解答」をお願いします。解答者全員の中から抽選で1名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント! 1題でも解けたらぜひご解答ください。

先月が9手特集でしたので、第144回の3題は全て2桁手数をご用意しました。

【今後の予定】

本年の出題も昨年同様に11月出題が最後で12月はお休みにします。

2022年の出題は2022年元旦の年賀詰の出題を予定しています。

つきましては、2022年、令和4年、トラ、虎、寅などに因んだ年賀詰作品を募集いたします。(こじつけ可)

投稿締め切りは12月15日といたします。奮っての投稿をよろしくお願ひします。

■本出題

144-1 初級 NAO 作

高飛車くん(その6) 10手

もうお馴染みの高飛車くんシリーズですが、今回は138-2に続く10手作です。

144-2 中級 Pontamon 作

玉から3筋離れる 11手

1間龍はよく見ますが、今回は2間離れています。最終手の駒成は飛でしょうか?

144-3 上級 ミニペロ 作

三捨利警部の推理 乏しい証拠 12手

先手陣への後手着手は1手だけ? 駒打ち可能だし中段玉もあり得る証拠だ。

144-1 初級 NAO 作

高飛車くん(その6) 10手

「きょうも5段飛車を指してやったぜ」

「いつもの高飛車戦法だね。成る手はなくてたったの10手で詰みか。5段目への飛の手より後に玉の手が2回あったね」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・10手で詰んだ
- ・5段目への飛の手より後に玉の手が2回あった
- ・成る手はなかった

144-2 中級 Pontamon 作

玉から3筋離れる 11手

「あっちの将棋は11手で詰んだって?」

「10手目の玉の手から3つ隣の筋への駒成で詰んだよ」

「自分の手番で、連続で金駒の手を指したらしいね」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・11手で詰み
- ・10手目の玉の手から3つ隣の筋へ駒成した
- ・自分の手番で、連続で金駒の手を指した

144-3 上級 ミニペロ 作

三捨利警部の推理 乏しい証拠 12手

「警部、12手詰の事件が発生しました」

「役に立つ証拠が少ないね」

「5手目は同歩、9手目は金右。そして、不成は最終手だけで、成る手なし。侵入経路ですが、3階の廊下は通っていないようです」

「危ない証拠は残さない。犯人は相当悪知恵が働く奴だな」

難事件のようです。一緒に手順を推理してください。

犯人より

「悪知恵が働く奴」じゃなくて「知能犯」と言ってもらいたいね。

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・12手詰
- ・5手目は「同歩」
- ・9手目は「金右」
- ・不成は最終手だけで、成る手なし
- ・3筋の着手なし

推理将棋第142回出題解説

担当 Pontamon

推理将棋第142回は上級問題3題でしたが15名の方から解答をいただきました。解答、ありがとうございます。

142回は余詰作2題の出題となり、大変申し訳ありませんでした。手数が長くなるというろんな手順が出てくるので余詰検討も大変になります。

142-1 上級 はなさかしろう 作 準備の10手とあと1手 14手

「隣の将棋が終わったみたいだけど、どんな将棋だったの？」

「14手目の初王手で詰んだよ。駒を成る手は2回あったな」

「後手陣の方にだいぶ手が行っていたみたいだったけど」

「そうだね。後手陣への着手が11回あった」

「ふうん…そうすると、後手の方が暇になりそうだけどねえ」

「そのせいかな。8筋にいる駒を動かす手が3回あったよ」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・14手目の初王手で詰んだ
- ・成2回
- ・後手陣への着手11回
- ・8筋にいる駒を動かす手3回

出題のことば (担当 Pontamon)

14手中11手が後手陣内の着手。後手陣外の3手で先手玉を詰める形とその準備とは？

作者ヒント

後手陣外の3手のうち後手の手は1手、定番の形です (はなさかしろう)

締め切り前ヒント

最終手の△57飛成を支える駒は93の角です。

推理将棋142-1 解答

▲76歩、△42金、▲33角不成、△41玉、▲42角不成、△52飛、▲53角成、△同飛、▲92金、△82角、▲93金、△同角、▲58玉、△57飛成まで14手

(条件)

- ・14手目の初王手で詰んだ(14手目△57飛成)
- ・成2回(7手目▲53角成、14手目△57飛成)
- ・後手陣への着手11回(初手▲76歩、13手目▲58玉、14手目△57飛成以外の11手)
- ・8筋にいる駒を動かす手3回(3手目▲33角不成、6手目△52飛、12手目△93同角)

詰上り図

後手の持駒：金歩

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	参		王	爵	科	皇	
二								馬		
三	馬	歩	歩	歩		歩		歩	歩	
四										
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	馬	歩	歩	歩	歩	
八					玉			飛		
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 歩3

後手陣以外の着手が3手しか許されていません。後手陣の飛や角で先手陣の玉を詰めるにはこれらの飛び道具の利きを通すために3段目の歩を先手が払う必要があります、それができるのは角だけなので▲76歩からの▲33角は必須になります。後手の飛び道具と言っても22の角で先手玉を詰めるには先手玉は77や88移転へ移動する必要があるのでは詰み形は角ではないでしょう。となると、後手の飛び道具は飛になりますが、先手玉を同じ筋の後手陣の飛の直射で詰めようとしても先手玉は左右へ逃げるのが簡単にできてしまいます。そんな中で唯一の詰み形として思い浮かぶのは、▲58玉に対して△57飛成で詰める形です。この形だと後手陣以外の着手3手は、▲76歩、▲58玉、△57飛成の3手であることが確定し、飛が57で成るためには53の歩を先手角で払う必要があることが

分かります。また、57に成った龍を支える駒は13か93の角しか無さそうです。

そこで、先手角が▲33角不成、▲42角不成、▲53角不成で53の歩を払い、▲13角不成を△13同角で後手が取って57へ利かしてみたのが参考1図です。14手で詰んでいるのですが、後手陣以外の手として▲35角不成が混ざっていて条件をクリアしていませんでした。

参考1図

後手の持駒：角歩

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	駒	玉	王		駒	科		
二									皇	
三	歩	歩	歩	歩		歩		歩	歩	
四										
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	駒	歩	歩	歩	歩	
八					玉			飛		
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 金歩3

参考1図：▲76歩、△52飛、▲33角不成、△42金、▲同角不成、△62玉、▲53角不成、△51玉、▲35角不成、△12香、▲13角成、△同角、▲58玉、△57飛成 まで14手

中段の着手である▲35角不成をしないで13の歩を先手が取るには▲31角不成を経由して▲13角不成する経路になりますがそれには22の角が邪魔なので後手の角は△12香から△11角のように一時退避する必要があります。指してみると、▲76歩、△52飛、▲33角不成、△62玉、▲42角不成、△12香、▲53角不成、△51玉、▲31角不成、△11角、▲13角不成、△22角、▲58玉、△13角、▲22銀、△57飛成などの手順では16手かかってしまいます。先手が後手の香を取ってから打って後手に香を渡し、後手は飛の尻に香を打って△57飛成を支える形だと更に手数が必要になります。

22の初期配置の後手角が13へ行って57の龍を支えるのが効率が良いように思いましたが、13の歩を先手角で払うにはその後手角が邪魔

をしていました。そこで今度は93の角で57の龍を支えることができないかを考えてみます。初期配置82の飛は52へ移動していれば▲71角不成から直接▲93角不成で93の歩を払うことができるので手数を減らせそうです。93の歩を払うというタスクについてはそれで良さそうなのですが、この93の角を後手が△93香や△93桂で取ると93への角打ちの邪魔になります。そこで、先手が93の歩を払うのを角以外の駒にさせて、後手は先手の角を取って使う手順を考えてみます。また、13の角の手順ではクリアできていなかった8筋の駒を3回動かす条件をクリアするにも93の角で57の龍を支えるのが正解な気がします。参考2図の手順では先手は後手の銀を取って▲82銀と打ち、8筋の駒が移動する3回目の手として▲93銀不成で93の歩を取っています。後手は先手の角を取ってから△71角と打って、▲93銀不成を△同角で取ることによって93地点への角配置を実現しましたが、残念ながら総手数は16手になり手数オーバーでした。

参考2図

後手の持駒：銀歩

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科		玉		駒	科	皇		
二				王				皇		
三	皇	歩	歩	歩		歩		歩	歩	
四										
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	駒	歩	歩	歩	歩	
八					玉			飛		
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 歩3

参考2図：▲76歩、△52飛、▲33角不成、△62玉、▲42角不成、△72玉、▲53角不成、△62銀、▲同角成、△同玉、▲82銀、△71角、▲93銀不成、△同角、▲58玉、△57飛成 まで16手

93の歩を先手着手で取れる駒として残っているのは金です。金の場合は、先手は取った金を92へ打ち込んでから▲93金で歩を払い、後手は取った角を△82角と打って93の金を取れ

ば8筋の駒を3回動かすことができます。その方針で指してみると、▲76歩、△52飛、▲33角不成、△42金、▲同角不成、△62玉、▲53角成、△同飛、▲92金、△82角、▲93金、△同角、▲58玉、△57飛成の14手で詰ますことができました。これで解図完了だと思うと、参考1図も参考2図もこの手順も最終手が初王手ではありませんでした。

53の歩を先手角で取るのは必須なのですが、3手目の▲33角不成が王手にならないようにしなければいけませんし、玉が62へ早逃げしたとしても▲53角不成で歩を取った時に王手になってはいけません。玉の早逃げも駄目なら、王手される前に事前に合い駒しておくしかありません。

初手から▲76歩、△42金、▲33角不成の後、先手の次の手は▲42角不成なるので51の玉は早逃げすることになります。△62玉か△52玉としたいところですが、△52飛の着手も必須なので玉がその手を邪魔してはいけません。ということで4手目は△41玉の早逃げです。4手目から△41玉、▲42角不成、△52飛、▲53角不成。この後、先手は9手目▲92金、11手目▲93金、13手▲58玉の着手なので、後手は角を入手して、△82角、△93角、△57飛成の4手になります。駒成回数が2回で指定されているので、7手目は▲53角成で、8手目から△同飛、▲92金、△82角、▲93金、△同角、▲58玉、△57飛成で詰みとなりました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

はなさかしろうさん(作者)「改めて見ると、中編の練習問題といった風情ですね。あとの2問が重たい回のようなようですので、本問は気軽に楽しんでいただければ幸いです。」

■正解者数は1番でしたが、短評を見る限りでは本作が一番の難問だったようです。

斧間徳子さん「後手陣外の3手は76歩、58玉、57飛成しかなさそうだと予想できるが、金を取って92金は凄い順で度肝を抜かれた。」

■△13角にするのが第一感の上、42や62で金銀を取って93の歩取りに使おうとしても王手回数をクリアできない順が多くて...

諏訪冬葉さん「後手陣以外の3手はほぼ決まりなのであとは条件を満たしつつ舞台を整えるだけ」

■やることは、△13角か△93角の配置ですが舞台を整えるのが難しかったです。

NAOさん「今月の最難問。端角と57飛成の組み合わせしか詰みがないはずなのになかなか手順が噛み合わない。そうか、93角か。22角を触らない手順に痺れました。」

■22の後手角を93へ持って行くこともできず。

緑衾さん「詰み形はすぐ見えたのですがそこから苦労しました。金を取るんですね。」

■しかも2手目の△42金を取る手順に限定されています。

ほっとさん「92金、82角が妙手順。」

■△13角が困難だと分かっても、△93角の配置にするための92金、82角は気付きにくいですね。

ミニベロさん「全然解けないのでヒント待ち。ヒントもらっても解けない。そうか、5筋と端の歩は、同じ駒で取るんじゃないのか。

22の角を使う順を追いかけすぎた。一つ一つの条件が利いていて、隙のない手順です。

ちょっと怖いけど、はなさかさんの作品はもっと見たい。」

■はなさかさんに限らず、ベテラン解図者からの投稿を担当も期待しています。

RINTAROさん「22角を使うことばかり考えていました。取らせて打たせるのではと気付くのが遅かったです。」

■取って打つ手筋はありますが、先後それぞれ

が指すのは珍しいかと思います。

飯山修さん「76歩と33角が必須なので後手の自陣外の手はわずか1手となると57飛成の詰形しかない。52香が打てそうもないので13か93の角の選択になる」

■△51香や△52香の手順だと20手になってしまうようです。

べべ&ぺぺさん「93の歩を金で取るとは考えにくいです。」

■まさかの▲92金からの▲93金でした。

中村丈志さん「自信ないです。8筋にいる駒というのが、「初形で8筋にいる駒」という意味でなければ、この解は間違っています。」

■8筋にいる駒の可能性は、初期配置の駒、8筋へ打った駒、8筋へ移動した駒（8筋から8筋へも含む）ですね。

ジェシーさん「最後は5七飛成までというのは想像が付きましたが、いったん5三に移動するというのが盲点でした。」

■先手の角には53以外に端の歩を取ってもらう必要がありますよ。

原岡望さん「まさかの92金」

■後手陣だけの着手で93の歩を取れるのは、角か82銀か92金ですね。

正解：13名

斧間徳子さん 諏訪冬葉さん NAOさん 緑衾さん ほっとさん ミニベロさん はなさかしろうさん RINTAROさん 飯山修さん べべ&ぺぺさん 中村丈志さん ジェシーさん 原岡望さん

142-2 上級 Pontamon 作
入玉して勝った 15手

「15手目の初王手で詰めたけど勝った気がしない」

「一体どうしたの？」

「同じ筋の玉着手で対局が始まって、13手目に入玉したんだ」

「入玉って玉が敵陣へ入ることだろ。そんなことしてたのに詰めたの？」

「本当は14手目で詰まされるとこだったけど、後手が飛の詰みの手を見逃したので逆転で詰めたんだ」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・15手目の初王手で詰み
 - ・同じ筋の玉着手で対局が始まった
 - ・13手目に入玉した玉を飛で詰める手があった
- *****

出題のことば (担当 Pontamon)

13手目の先手玉の入玉までの道中で、王手されずに金や銀を取ることはできません。

作者ヒント

見逃した14手目は先手の玉頭へ飛を振る手 (Pontamon)

締め切り前ヒント

駒打ちは無く、駒移動の最大は角の2マス移動です。

余詰修正

会話

後手が詰みの手を見逃した ⇒ 後手が飛の詰みの手を見逃した

条件

- 13手目に入玉した玉を詰める手があった ⇒
 - 13手目に入玉した玉を飛で詰める手があった
- *****

推理将棋 142-2 解答

▲48玉、△42玉、▲46歩、△34歩、▲47玉、△44角、▲56玉、△35角、▲55玉、△64歩、▲同玉、△33玉、▲63玉、△44玉、▲76歩まで15手

(条件)

- ・15手目の初王手で詰み (15手目▲76歩)
- ・同じ筋の玉着手で対局が始まった (初手▲48玉、2手目△42玉)
- ・13手目に入玉した玉を飛で詰める手があった (13手目▲63玉に対して14手目△62飛なら詰み)

詰上り図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	麩	玉	玉	科	皇			一
	飛								二
歩	歩	歩	玉	歩	歩		歩	歩	三
					王	歩			四
						馬			五
		歩		歩					六
歩	歩		歩	歩		歩	歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒 歩

本問では手数が増える手順よりも短手数の詰み形を考えた方が解き易いかもしれません。つまり 15 手の手順を考えるよりも、13 手目に入玉した先手玉を 14 手で詰める手順を考え、14 手目を後手の悪手に変えて、15 手目で先手が詰めればよいのです。

入玉した玉を詰める形と言え、137-3 で出題されたミニペロ作の「墨守」の詰み上がりの形が思い出されます。

▲68 玉、△62 玉、▲56 歩、△34 歩、▲57 玉、△32 金、▲46 玉、△42 金、▲45 玉、△32 金、▲34 玉、△42 金、▲23 玉、△33 金の手順だと 13 手目に入玉した先手玉を 14 手目で詰めることができますが、14 手目が違う手だとしても 15 手で詰めることはできません。それはこの手順だと 13 手目に入玉するまでに入手できる駒が歩しかないからです。

15 手で詰めることに戻します。13 手目に入玉するまでの経路で歩以外の駒を入手して、最終手でその駒を打つだけで詰む形にはどんな形があるのかを考えてみます

金や銀を入手して 1 段目の後手玉を 3 段目の先手玉と 2 段目へ打つ金気での詰みの形はありますが、入玉するまでに金気の駒を取るには王手がかかるはずなので条件を満たせません。(同じ段の銀を玉の横移動で取ることはできてもそれだと 13 手目の入玉はできません)

となると、1 段目の後手玉に対して、同じ筋の 3 段目に入玉した先手玉とその隣のマスへの桂打ちの吊るし桂の形が思い浮かびます。参考 1 図の手順がその一例ですが 14 手目に先手玉を詰めることができる手がありません。

参考 1 図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇		麩	王	玉	玉	麩	科	皇	一
	飛						馬		二
歩	歩	桂	玉	歩	歩	歩	歩		三
								歩	四
									五
			歩						六
歩	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒 歩2

参考 1 図：▲68 玉、△62 玉、▲66 歩、△74 歩、▲67 玉、△73 桂、▲56 玉、△65 桂、▲同玉、△51 金右、▲74 玉、△61 玉、▲63 玉、△14 歩、▲73 桂 まで 15 手

3 段目からの吊るし桂以外にも▲68 玉、△62 玉、▲66 歩、△34 歩、▲67 玉、△33 桂、▲56 玉、△45 桂、▲同玉、△54 歩、▲同玉、△72 飛、▲43 玉、△51 金左、▲54 桂 までの詰み形もありますが、こちらも 14 手での詰みはありません。

入玉の途中で取った駒を最終手で打つ詰手順が無さそうですが、入玉に必要な歩突きと玉移動の手数から考えられる残りの手数は 1 手しかない、後手玉を 15 手で詰めるには、最終手はきっと角が飛び出て行く手順なのでしょう。その方針で指してみたのが参考 2 図です。14 手目の△54 歩の代わりに△42 飛とすれば詰むのですが、△51 金左が間に合っていないので参考 2 図は詰んでいません。「3 手目と 4 手目は同じ筋の玉の手」の条件だと初手の▲76 歩の次の 2 手目に△32 飛や△52 飛を指してから▲68 玉、△62 玉を指せるのですが、条件の玉着手は初手と 2 手目でした。

参考2図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科		王		王	飛	科	皇	一
		飛	王			飛	皇		二
歩	歩	歩	歩		玉	歩	歩	歩	三
				歩	角				四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒 歩

参考2図：▲68玉、△62玉、▲76歩、△51玉、▲77玉、△32飛、▲66玉、△62玉、▲55玉、△44歩、▲同玉、△72銀、▲43玉、△54歩、▲44角 まで15手

余詰の修正条件だと14手目は飛で先手玉を詰める手順に限定されましたが、元条件を満たす14手目に飛以外の駒で詰める手順であれば、▲68玉、△62玉、▲76歩、△54歩、▲77玉、△72銀、▲66玉、△42銀、▲65玉、△51金左、▲54玉、△53銀、▲43玉、△44銀、▲同角 まで15手の手順がありました。14手目が△42金だと先手玉が詰むのですが、12手目の△53銀が王手なので辛うじて余詰を逃れていた手順があります。

入玉するために多くの手数を使ってしまった先手は、残り1手で後手玉を詰める手段が尽きてしまったように思いましたが、万策が尽きた訳ではありません。万策が尽きたと思った時には空き王手の手段を思い出すことが重要です。

本問では、13手目までは入玉のために手数が費やされているので空き王手で後手玉に留めを刺せるのは角しかありません。つまり最終手の15手目は▲76歩のはずです。後手玉が後手陣に居ると▲76歩の空き王手に対して△44歩などの移動合いで詰みを逃れてしまいます。つまり、後手玉は44か55の中段に居る必要があります。

後手玉が55に居る場合、6段目は先手の歩

がカバーしているので問題は無さそうです。後手玉の後方については先手玉が63地点へ入玉していれば54地点と64地点をカバーでき、44地点は角の利きがあるので退路にはなりません。残るのは45と65の地点です。45は△45桂の協力が可能かもしれませんが、65の退路を塞ぐ方法がありません。よって、後手玉は44地点のはずです。

後手玉が44地点の場合、先手玉が63へ入玉していれば54地点をカバーでき、後手の△34歩で34地点は塞がっていますが、残る35地点と45地点を塞ぐ手段があれば15手目の▲76歩で後手玉を詰まることができそうです。

▲36歩で先手玉が37地点経由で63への入玉を目指した場合は、35地点は先手の歩でカバーできているので、玉退路として残っているのは45地点なので△45桂で退路封鎖に協力することができそうです。この詰み形からだとも14手目は△62飛で先手玉を詰めることができそうですが、13手目の先手玉の入玉時点では後手玉は33地点に居るはずなので、53の歩への利きがないため▲53玉で逃げられてしまいます。14手目の△62飛で先手玉を詰めるには、53の歩を守る駒が必要になります。後手玉の退路地点である35を塞ぎつつ53地点に利かせることを考えると△35角は容易に思い浮かぶはずですが、この場合、先手玉が入玉を目指すための経路は▲46歩で空けた47経由になり、▲46歩が後手玉の退路の45地点をカバーすることになります。

後手玉は33経由で44へ行く必要があり、先手玉は47地点を経由する必要があるため、対局開始の同じ筋の玉着手は初手から▲48玉、△42玉で、入玉を目指す先手の3手目は45地点のカバーも兼用する▲46歩で、後手の4手目は、35へ角が行くためと33へ玉が行くための兼用になる△34歩で5手目は▲47玉です。63地点への入玉には△64歩とした歩を取る経路になりますが、▲65玉に△64歩だと王手になるので、▲55玉経由で64の歩を取る必要があります。しかし、後手の角が利いている時に▲55玉はできないので、これらを加味すると6手目は△44角で続いて▲56玉、△35角、▲55玉、△64歩、▲同玉で次の13手目に63地点へ入玉します。12手目は△33玉で続いて▲63玉です。

この時点で△62 飛であれば先手玉は詰んでいたのですが、後手の 14 手目は△44 玉だったため 15 手目の▲76 歩の空き王手で逆転勝ちとなりました。

元条件での余詰手順は

▲58 玉、△52 玉、▲46 歩、△54 歩、▲47 玉、△32 銀、▲56 玉、△31 角、▲45 玉、△97 角成、▲54 玉、△42 玉、▲63 玉、△51 歩、▲97 角 まで 15 手

で、14 手目が△53 馬だと先手玉が詰みます。粗検、申し訳ありませんでした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者)「余詰作を出題したのみならず、余詰ではなかった手順を余詰だと勘違いして修正⇒撤回のドタバタ劇の末にやはり余詰があったということで最初の余詰修正条件の復活という醜態をさらしてしまいました。粗検、申し訳ありませんでした。」

斧間徳子さん(双方解)「第 1 感の 33 桂～45 桂ではうまくいかず、44 角～35 角に辿り着く。少ない条件で洗練された作品かと思いきや、次の余詰が成立しているようです(この余詰も妙手順です)。

【余詰め】58 玉、52 玉、46 歩、54 歩、47 玉、32 銀、56 玉、31 角、45 玉、97 角成、54 玉、42 玉、63 玉、51 歩、97 角まで 15 手。」

■ 出題翌日の斧間徳子さんからの解答で余詰指摘があったのですね。

諏訪冬葉さん「最終ヒントを見るまで後手角は△77 角不成・△55 角不成で取らせると思っていました。」

■ ▲58 玉、△52 玉、▲46 歩、△34 歩、▲47 玉、△77 角不成、▲56 玉、△55 角不成、▲同玉のような序でしょうか。後手の手数が足りなくなるようです。

NAOさん(双方解)「片方の玉の詰ませ方はいろいろあるが、14 手目と 15 手目の双方で詰む形の探索には苦戦した。いかにも二段玉が詰み

そうなだけに中段玉には意表を突かれました。」

■ 入玉途中に金銀を取って玉頭へ打つ形や 51 地点を埋めて壁へ追い詰めた後手玉を入玉した先手玉の隣へ金気を打つ形がありそうに見えます。

緑衾さん(双方解)「ぎりぎりで不成立の手順が多く、余詰があっても傑作だと思います。」

■ 余詰の指摘、ありがとうございました。14 手で詰ませる形は△33 金以外は 2 段目の飛しか見えてませんでした。

ほっとさん(双方解)「53 に利きを残しつつ 35 を塞ぐ 44 角～35 角がうまい。」

■ △42 玉や△44 玉で 53 の歩を守る以外にも手がありました。

ミニベロさん「これもヒント待ち。でも解けない。4 4 角迄は間違っているのか？」

この最終手は知っているのに、4 4 角を追いかけすぎた。

そして、この詰み形も熟知しているはずなのに。この条件ですべて限定されているとは！

1 4 2 の 1 もそうだが、初王手で詰みの条件がよく利いている。」

■ 2 回王手になってしまう最終手▲44 角の手順を解説に追記させていただきました。

はなさかしろうさん(双方解)「後手も玉を繰り出すという発想が浮かばず、あっさり締め切り前ヒント待ちしましたが、それでも相当かかりました。満足感のある解き心地です。振り返ってみると 43 玉や 23 玉の紛れも相当深かったし、元条件の余詰筋もまたぴったりで、難問でした。」

■ 実は双方入玉の 16 手作(未発表)からの発想だったの後手玉も動いたのでした。

RINTARO さん「詰め上がり図からの逆算で解きました。ぴったり限定されている感じが素晴らしいです。」

■ 空き王手が思い浮かべば、解説のように逆算

可能ですね。

飯山修さん「直前ヒントの駒打なしでそれ迄の思考は全部無駄と判明。角 2 マス移動で最終手詰上げも難しい。76 歩で仕留める回路によりやく到達。44 玉の逃げ道塞ぎは角でも桂でも良さそうだけど 53 に効く分角が優る。また桂だと 37 経由の為 15 手目初王手条件をクリアできない」

■桂の場合の手順だと 14 手での詰みが無い他に、▲48 玉、△42 玉、▲36 歩、△34 歩、▲37 玉、△64 歩、▲46 玉、△33 桂、▲55 玉、△45 桂、▲64 玉、△33 玉、▲63 玉、△44 玉、▲76 歩の 10 手目の△45 桂が空き王手になってしまいますね。

べべ&ぺぺさん「先手の手は、歩が 1 回・・・7 6 歩。角が 1 回・・・6 6 角。玉が 6 回。詰む形が見えません。」

■ヒントの「駒移動の最大は角の 2 マス移動」は先手角ではありませんでした。

原岡望さん「6 筋 5 筋 4 筋の 3 択なのにできないとは悔しいです。角の 2 枡も想像がつかえません。」

■14 手詰と 15 手詰の両方の形を考える必要があるので、ヒントで空き王手を明かしても良かったかも。

正解：9 名

斧間徳子さん 諏訪冬葉さん N A O さん
緑衾さん ほっとさん ミニベロさん はなさ
かしろうさん RINTARO さん 飯山修さん

1 4 2-3 上級 ミニベロ 作
墨守 3 1 8 手

「隣の将棋見たかい。後手は自陣から一步も出ない墨守戦法使ってたね」

「ああ見たよ。しかも新型の、2 枚の駒と二つの筋しか使わないやつだよ」

「先手も、一手おきに玉の手を指す工夫を見せて抵抗してたけどね」

「ああ、玉が 5 段目まで行ったところで 18 手で詰まされちゃったね」

「5 筋の手は一度だけだったね。これが敗着かな？」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・ 1 8 手詰
- ・ 後手は、2 枚の駒で自陣内の二つの筋だけを着手
- ・ 先手は、一手おきに玉の手を指し、5 段目で詰み
- ・ 5 筋の手は一度だけ

出題のことば (担当 Pontamon)

今回の墨守は 2 つの駒で 2 つの筋のみです。同じ段の玉着手があるのかどうか。

作者ヒント

飛車筋は渡れない (ミニベロ)

締め切り前ヒント

4 回の着手で端の 5 段目へ行った玉を飛と香の利きで詰めます。

余詰修正

会話「ああ、玉が 5 段目まで行ったところで 18 手で詰まされちゃったね」⇒「ああ、結局玉は 18 手目に、6 段目で詰まされちゃったね」

条件

「5 段目で詰み」⇒「6 段目で詰み」

余詰再修正 (作意順が変わるのを回避)

元の会話、条件からの再修正

会話「5 筋の手は先手だけだったね。これが敗着かな？」⇒「5 筋の手は一度だけだったね。これが敗着かな？」

条件「5 筋の手は先手だけ」⇒「5 筋の手は一度だけ」

推理将棋 1 4 2-3 解答

▲76 歩、△62 金、▲68 玉、△61 金、▲55 角、△62 金、▲77 玉、△61 金、▲73 角成、

△62 金、▲86 玉、△92 香、▲83 馬、△61 金、▲95 玉、△62 金、▲93 馬、△同香 まで 18 手

(条件)

- ・ 18 手詰
- ・ 後手は、2 枚の駒で自陣内の二つの筋だけを着手（6 筋の△62 金、△61 金の往復着手と 9 筋の△92 香、△93 同香）
- ・ 先手は、一手おきに玉の手を指し、5 段目で詰み（3 手目▲68 玉、7 手目▲77 玉、11 手目▲86 玉、15 手目▲95 玉）
- ・ 5 筋の手は一度だけ（5 手目▲55 角）

詰上り図

後手の持駒：角

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	
二		飛		金				馬		
三	馬			歩	歩	歩	歩	歩		
四										
五	玉									
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩		
八							飛			
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 歩3

5 段目の玉を詰めるには片側が壁になっている端玉の形が退路が少なく都合が良いはずですが。そして、端の 6 段目が玉の退路となないようにする最終手は香のはずで、端から 2 筋目は中段の 3 地点をカバーできる飛のはずですが。後手の手で先手陣の手が許されるのであれば、7 段目に大駒の成駒が配置されれば 6 段目の退路をカバーできますが、本問では後手着手は後手陣だけなので、端の段目玉を香と飛のふた筋で詰める形のはずです。

参考 1 図は、先手の△15 玉を 1 筋の香と 2 筋の飛で詰めたものですが、手数オーバーの 20 手なので失敗でした。

参考 1 図：▲36 歩、△12 香、▲48 玉、△11 角、▲76 歩、△22 飛、▲37 玉、△24 歩、▲55 角、△23 飛、▲26 玉、△22 飛、▲46 角、

△23 飛、▲15 玉、△22 飛、▲24 角、△23 飛、▲13 角不成、△同香 まで 20 手

参考 1 図

後手の持駒：角

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	馬	桂	銀	金	王	金	銀	桂	馬	
二										
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		
四										
五								玉		
六			歩				歩			
七	歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	
八							飛			
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 歩2

参考 1 図の手順では、角が出て行くための▲76 歩と玉が出て行くための▲36 歩の 2 手が必要なために手数オーバーになったようです。それに後手は自陣内の手ではない△24 歩を指してしまっています。

角出と玉出を兼ねた▲76 歩で 95 地点の玉が詰む手順なら手数を減らせそうです。また、後手が△84 歩と指さずに済ますためには、▲66 角から▲93 角成後に▲83 馬で歩を取れば良さそうです。参考 2 図はこの方針で指してみたもので、無事に 18 手で先手玉を 95 地点で詰ますことができました。しかし、条件で指定されている 5 筋の手が入っていないですし、先手玉の着手は 1 手おきですが 5 手目からの 4 回なのでこの場合は初手も玉着手でないといけないので失敗でした。

参考 2 図：▲76 歩、△92 飛、▲66 角、△82 飛、▲68 玉、△92 飛、▲93 角成、△82 飛、▲77 玉、△92 飛、▲83 馬、△82 飛、▲86 玉、△92 飛、▲93 馬、△82 飛、▲95 玉、△93 香 まで 18 手

参考2図

後手の持駒：角

	飛								馬	一
馬		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	二
										三
										四
玉										五
		歩								六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
								飛		八
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香		九

持駒 歩2

後手には2つの筋で2つの駒の着手しか許されていなくて、詰み形は端からの2つの筋の香と飛の形のはずなので参考2図では飛を9筋の8筋を往復させて時間稼ぎをしていました。先手は馬を作って83の歩を払い、17手目は▲93馬として△同香での詰みのはずです。参考2図の詰み上がりを目指すしかないのですが、どこか改良できる手順があるのでしょうか。

先手の5筋の着手条件から想像できる手は▲55角です。その後の▲73角成で馬を作り、▲83馬から▲93馬と指せば良さそうなのですが、▲73角成が王手になってしまうので飛を△62飛と振ると後手の着手筋が3つになるのでいけません。参考1図の手順では飛を2筋に振る必要があったので、時間稼ぎは飛を2筋内で移動させる手順を採用しましたが、95の先手玉を詰める手順では初期配置の82の飛は動かす必要がないことに気付けば、▲73角成の王手の対応を別の手で済ますことができます。王手を掛けられている51の玉を△52玉、△51玉を往復させて時間稼ぎをすることができますが、条件により後手玉を5筋で動かすことができません。となると必然的に▲73角成の王手の合い駒は△62金です。△52銀の合い駒だと銀は△62銀と△71銀を繰り返すことになり、最終手の△93香と合わせると後手の着手筋が3つになるので62地点での合い駒は△62金になります。その後、この金は△61金、△62金の往復で時間稼ぎをします。

よって、初手から▲76歩、△62金、▲68玉、△61金、▲55角、△62金、▲77玉、△61金、▲73角成、△62金、▲86玉まで進めたところで問題発生です。73に馬が居るので12手目に△61金と指すことができません。13手目は▲83馬なので14手目は△61金を指して時間稼ぎを続けることができますが12手目は何ができるでしょうか？後手の着手筋は2つだけで、着手は2つの駒だけという条件なので、初形61の金を62との往復で時間稼ぎすることと最終手の△93香を予定していたのでそれ以外の筋や駒を指すわけにはいきません。解決策は何のことはなく△92香です。やることに決まっているとタイミングがずれると見えなくなってしまう固定概念に気をつけましょう。

12手から、△92香、▲83馬、△61金、▲95玉、△62金、▲93馬、△同香で詰みとなりました。

最後に、ほっとさんから指摘があった余詰手順の紹介と作者からのお詫びのコメントが寄せられていますので掲載します。

余詰手順

▲56歩、△32飛、▲68玉、△42銀、▲76歩、△31飛、▲57玉、△32飛、▲33角成、△31飛、▲46玉、△32飛、▲43馬、△33飛、▲55玉、△31銀、▲65馬、△43飛 まで18手

2つの筋で2つの駒という条件から、往復運動での時間稼ぎができる駒は、縦運動では玉と金、横運動では飛だと思い込んでいましたが、飛を縦と横に動かすというブレークスルーの発想が素晴らしいです。(担当)

作者(ミニベロ)よりのお詫び

先ず、余詰のお詫びです。ほっとさんの御指摘の順は、全く見えませんでした。出題されれば解けないレベルの巧妙な順でした。

次に、怪しい修正のお詫びです。言い訳ですが、制作時において15手目(後述)は、5段目でも6段目でも狙いには関係のない『どちらでもいい』手でした。

この『どちらでもいい』が私の頭の中で一人歩きして、安易に修正してしまいましたが、勿論作意を変える順はいけません。これにすら気がついていない低いレベルの話でした。解答者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

そして「15手目」と「17手目」の間違いですが、これは「悪手が悪手を呼ぶ」という言い訳にならないミスでした。重ねてお詫び申し上げます。

担当からも粗検のお詫びを申し上げます。それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

ミニベロさん(作者)「12手目の92香しか謎はないので、一番易しいと思う。この詰め上がり、前例がなければいいのだが。難しかった人には、おまけバージョンをどうぞ。

- ・18手詰
- ・後手は、自陣内の二つの筋を交互に着手
- ・先手は、一手おきに玉の手」

■おまけバージョンも難しいはずだけど…。第143回の9手特集が簡単過ぎた方はこの「おまけバージョン」の解答を143-番外で解答してください。(手数で言えば、9手作5題と同じ。昨年は9手作6題の出題で結果稿が大変だった)

斧間徳子さん「今月では一番易しかったが、解いて楽しい秀作と思う。」

■次回の墨守作品はどうなるでしょうか。墨守の残り作品の内の1作はミニベロさんの短評で「おまけバージョン」として出ています。

諏訪冬葉さん「最終ヒントだけで解きました。「17手が変わる」の意味がわからない・・・」

■すみません、「17手が変わる」は「15手が変わる」の間違いでした
NAOさん(双方解)「長手数の割には取り組みやすい。金の手の合間に92香が限定で1回入るのが洒落た構成。」

■最終手の△93香までは金の上下運動だと思っていると、はたと悩む。暗算での解図では要注意ですね。

緑衾さん「141-3で考えた筋がほぼそのまま解答でした。結局余詰は分かりませんでした。修正後の条件「・5筋の手は一度だけ」は会話には「敗着」とあるので先手の手だと書いた方がいいかもしれません。」

■元の条件は「先手だけ」なので会話の「敗着」に不整合はありませんでしたが、条件を「一度」にしたら会話の「敗着」の記載は削っても良かったですね。(着手回数で条件をきつくれた代わりに先後の可能性で緩くする)
141-3の緑衾さんの短評への担当コメントは本間があつたのではぐらかしてました。

ほっとさん(双方解)「後手の飛を動かすことばかり考えていた。まさか金・香だけで間に合っているとは。」

■後手の飛の動かし方に参りました。

はなさかしろうさん(双方解)「難しく、締め切り前ヒントを見てもしばらく解けませんでした。先手が角の手で後手玉に王手すると交互玉条件で手詰まりになると速断してしまったのがいけませんでした。手数に緩みを持たせたづくりもまた、難しさの一因だったと思います。とはいえカッコ良い余詰筋や紛れ筋が生じていて、とても楽しかったです。」

■本来なら、余詰手順ではなく作意順で楽しんでいただくはずでした。

RINTAROさん「不自然な5筋の着手で角を使うことに気付きました。後手の着手が自然に限定されている点が素晴らしいです。142-3余詰再修正の作者コメントにある「玉方の最終手」とは「17手目」ではなく「15手目」のことでしょうか？」

■先手玉の着手は1手おきなので、最後の玉着手が▲95玉でも▲96玉でも成立する手順だったので、思いっきり勘違いしました。

飯山修さん「この手順しか思いつかないが5筋の条件クリア出来ず。55角一>73角成は王手放置だし。5筋2回以上着手の余詰手順も判りません。」

■参考2図の手順だと5筋着手が無いので失敗でした。締め切り前ヒントの「飛と香の利きで」はちょっと意地悪なヒントでした。15の玉の場合は後手の飛着手は必要ですが、95玉の場合は飛の利きは詰めに必要ですが飛の着手が不要な手順が作意でした。

べべ&ぺぺさん「手が広い印象で、考えにくくて解けません。」

■端玉だと手が狭まります。分かり易い詰み形からの逆算も解き方の一つです。

占魚亭さん「第一感は飛でした。」

■おそらく、参考2図のような手順ですね。

原岡望さん「妙手92香」

■後手着手に困っていたら△92香がありました。9筋の後手着手は最終手の△93香の1手だけだとの思い込みが△92香の発見を遅らせます。

正解：11名

斧間徳子さん 諏訪冬葉さん NAOさん
緑衾さん ほっとさん ミニベロさん はなさ
かしろうさん RINTAROさん 占魚亭さん
テイエムガンバさん 原岡望さん

総評

斧間徳子さん「3年目に突入とのこと、担当の激務、お疲れ様です。今月は手数は長いですが3作とも好作で楽しめました。たしかにやる事が決まっている中編は、難解な短編よりはるかに解きやすいですね。」

■「難解な短編よりはるかに解きやすい」とは云うものの、出題翌日に全問正解+余詰指摘には参りました。

NAOさん「解答者減が心配だがたまにはこのような出題も歓迎します。長手数3題は手応えたっぷり、十二分に楽しみました。」

■解答者数は微減で済みましたが、全員正解の問題はありませんでした。全問正解は約半数。

緑衾さん「超手数特集だと1問目から重たくて大変でした。墨守って、中国の故事からきた言葉なんですね。」

■墨守は投稿があった際に担当もネットで調べました。

ほっとさん「上級3作はなかなか大変だった。」

■手数で分類すると上級になってしまいますが、14~16手の初級があっても良いかと思えます。

ミニベロさん「合計手数は多いが、いい選題だと思う。」

詰将棋でもそうだが、長編は繰り返しや絶対手が多いので、やってみると実はそれほど難しくはない(なんてヒント待ちだけ)。今回も、142-3が一番簡単だし。」

■まだ墨守シリーズ残っているので15手以上が普通になる時代が来ますかね?今は9手が初級で11手が平均でしょうか。

RINTAROさん「解図するのが遅くなりました。必然的にヒント頼りになってしまいました。」

■今回は上級3題ということもあって、強豪解答者もヒント待ちされていたようです。

飯山修さん「長手数特集は初の試みですかね。解答者が減らなければいいですが。」

■解答者数は若干の減で済みました。

べべ&ぺぺさん「時間切れです。次回は全問正解を目指します。」

■出題中の143回は9手特集なので全問正解になるでしょう。

占魚亭さん「すみません、今回は1問解答です。手をつけたのがギリギリで時間がありました。」

■解図0問での感想送付でも構いませんので今後もよろしくお願ひします。

ジェシーさん「今月は時間切れにつき、一問だけです・・・。」

■143回は全問解答を期待しています。

テイエムガンバさん「今回は1問だけの参加です。次回以降は全問正解できるように頑張ります。」

■1問だけの解答の方が3分の1居ましたが、解答された問題は割れていました。

原岡望さん「今回は全面的にヒント頼みです。今月は詰パラも解けないのがあり絶不調です。」

■詰パラ9月号の推理将棋は休載ですし、143回は9手特集なので楽勝ですよね。

推理将棋第142回出題全解答者： 15名

斧間徳子さん 諏訪冬葉さん NAOさん
緑衾さん ほっとさん ミニベロさん はなさ
かしろうさん RINTAROさん 飯山修さん
べべ&ぺぺさん 中村丈志さん 占魚亭さん
ジェシーさん テイエムガンバさん 原岡望さん

おまけ作は、解答募集をしているわけではないのですが、NAOさんより、解答と余詰順をいただきましたので、修正しておきます。ありがとうございました。

- ・18手詰
- ・後手は、自陣内の二つの筋を交互に着手
- ・後手の使用駒は2枚
- ・先手は、一手おきに玉の手

実験室の悲劇(第1回)

占魚亭

供養を兼ねて没作を公開していくことにしました。『WFP』ではニッチ度の高いものを上げていきます。

今回は Imitator の3解もの。「やさしい双裸玉 Imitator」用のものを作っている時にできたものですが、想定していた形にならなかったのもので没にしたものです。

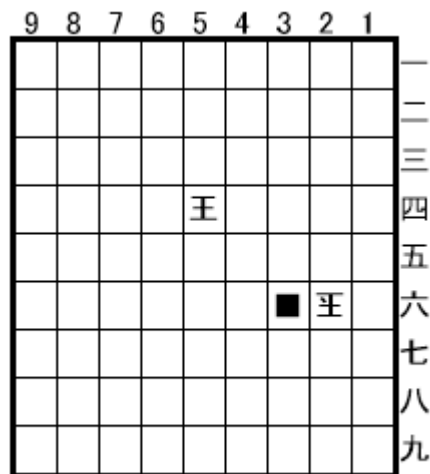
【協力白玉詰】

双方協力して攻方玉を詰める。

【Imitator(■またはI)】

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

協力白玉詰 6手(3解)



持駒 銀

※■:Imitator

作意の発表は次回。コメント等がありましたら、sengyotei■gmail.com(■を@に) お願いします。

《双玉連続王手》

さんじろう

WFP を読むようになり、バックナンバーを見ているとき、はなさかしろう氏の双玉連続王手の文章が目にとまった。元々は一乗谷酔象氏の推理将棋の解答がきっかけとのこと。私は別ルートをとったのだが、約 40 年前の双玉連続王手の長手数競争の顛末を書かせていただく。

発端は茨城県の袖山博という方の提唱で、「双方逆王手の連続する長手数の図を作れ」という記事が詰パラ 281 号 (1979-7) に載った。見本として、同氏の 14 手の図を上げる。

図 1 袖山博 14 手 詰パラ 281 号

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	馬							馬	一
									二
			馬	王	馬				三
龍					香			龍	四
			王	歩	馬				五
				香					六
				香					七
				香					八
				香					九

持駒 金

手順:54 金 同金 同歩 同銀 同香 同銀 同香 同銀 同香 同角 同香 同角 同龍 同龍迄 14 手。

将棋の駒とルールを使用したパズルだが、詰将棋ではないのでご注意ください。このパズルは詰将棋のように手順を求めるものではなく、図を作るタイプのパズルだ。上の図では初手以外同○と取る駒が双方で 13 枚あるので、手数は 1+13=14 手という分かりやすさだが、この仕組では並べる駒の枚数の限界=手数の限界となり、長手数化するには何か新たな工夫が必要となる。この投稿が意外な反応を引き起こした。

詰パラ 287 号 (1980-1) にどさっと 7 作陳列された。手数順に並べられているので、作者と手数を書き出してみよう。

1. 小谷善行 19 手。
2. 詰魔仙 22 手。
3. 竹本封由之進 23 手。
4. 佐々木康司 24 手。
5. フェアリー狂 26 手。
6. 岸本秀春 33 手。
7. 平博臣 41 手。

この中の最長手数作が次図。

図 2 平博臣 41 手 詰パラ 287 号

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					馬				一
					馬				二
				銀	馬	銀			三
	馬				香				四
		龍	ス	王	ス	銀			五
		ス				と	龍		六
		と	と	王	と	と			七
									八
				香		桂		角	九

持駒 金銀

手順 :

64 銀打 同龍 66 金 同角 同と 同と
同と 同と 48 王 58 金 同香 57 銀
同香 56 桂打 同と 同桂 同香 同と上
44 銀打 同龍 同銀生 同香 同銀生 同香
同銀 同香 A45 飛 同香 46 金 同香
同と 寄 同飛 47 桂打 同と 同桂 同飛
同と 28 飛 同角 37 金 同角迄 41 手。

手順が書かれていないので、復元するのに一苦労した。いやはや大変だ。非限定が多いのは仕方がないが、ポイントは収束の 28 飛を可能にするために、後手方に飛車を渡しておかなければならないところ。

作者 / これ以上は一寸無理では？

編集部 / この命題はそんなに面白いものでもなく発展性もないので、今回の紹介で打ち切りにしたい。

編集部が幕引きを宣言した。ところがどっこい詰パラ読者はそう簡単には引き下がらない。

図3 中島和男 45手 詰パラ 289号

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
				歩					四
				歩		歩			五
			歩	歩	歩	歩	歩		六
			歩	歩	歩	歩	歩		七
			歩	歩		歩	歩		八
			歩		歩		歩		九

持駒 なし

作者／初手 48 飛以下 28 と 48 に玉方のコマを打ち或いは成り、これを同飛と取るのを繰り返す。初手プラス玉方 22 枚の駒を取るので 44 手、計 45 手。

28 に利いている駒が 6 枚、48 に利いている駒が 7 枚。他に 36 桂と金銀の持駒が 8 枚あり、合わせて 22 枚ということですね。何と明快な手順でしょうか。素晴らしい。

これがブレイクスルーとなり、手数は 50 手超の競争になった。以降の作は全てこの手順を採用している。

中島手順（飛車の横往復）終了後、縦型の空王手ができるようになっているのが長手数化の基本的な工夫。

詰パラ 294 号読者サロンに一举 5 作が載った。すべて図と手数のみ。作者と手数を書き出すと、以下のようになっている。

1. 平井康雄 50 手。
2. 棋学類想者 55 手。
3. 深井一伸 59 手。
4. 佐々木康司 60 手。
5. 棋学類想者 62 手。

これで競争に終止符が打たれ、以降 40 年間記録は更新されていないようだ。

ということで、最長手数作は 62 手、作者は棋学類想者ということになる。PN は気が狂いそう、ということか、、、

図4 棋学類想者 62手 パラ 294号

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			歩	歩					一
			歩		歩		歩		二
			歩	歩		歩	歩		三
			歩	歩	歩	歩	歩		四
			歩	歩	歩	歩	歩		五
			歩	歩					六
						歩			七
									八
									九

持駒 金4銀4

手順：

42 歩成 同と 43 と寄 同飛 23 と寄 同飛
 43 と直 同飛 23 歩成 同飛 43 と 同飛
 23 と 同飛 43 桂左成 同飛 23 桂右成 同飛
 43 香成 同飛 23 香成 同飛 43 銀 同飛
 23 銀 同飛 43 銀 同飛 23 銀 同飛
 43 金 同飛 23 金 同飛 43 金 同飛
 23 金 同角 同桂成 同飛 43 角 同角
 同香成 同と 45 王 36 角 同香 35 金
 同香 34 金 同香 33 桂 同香成 同と
 42 金 同飛 43 角 同飛 44 桂打 同と
 同桂 同飛 迄 62 手。

元々作意手順の発表はなかった。上記は、はなさかしろう氏の手順。中島手順が終わった後の先手 45 王と、その後後手 33 同とがともに開き王手になるのが工夫で双方が逆王手を続けられる。この図については、WFP134 号にはなさかしろう氏が詳しい分析を載せている。ぜひご参照ください。

本作については、初出のときからアヤシイと考えていました。何がアヤシイかって？作者ですよ、作者。私は当時から左真樹氏の PN ではないかと考えていたのです。

1. この競争に参加した作家は実名が多かった。PN 使用の作者は少ない上に、棋学氏以外の方は、同じ名前で作品発表がある。棋学氏のみ作品発表が過去無い PN だった。これはきっと別名で作品発表をされている方だろうと考えられる。
2. 読者サロンに載った図に付けられていたのは「62 手 栃木県 棋学類想者」だけ。当時

左氏の作に付けられていたのは、「宇都宮市
左真樹」。

3. PNの「気が狂いそう」そのものの語感。雰
囲気。

根拠はPNそのものの醸し出す雰囲気と栃木
県～宇都宮市という連想だけの単なるカンとい
うしかないものですが、、、。しかし、40年経
ってその直感が当たっていたことが分かった！
左氏自ら本作の作者であることを明かされたの
でした。いえ～い。

本稿はこれで終わるつもりだったのだが、何
度目かの読み直しの時、「あれ？」前ページの詰
パラ 294 号のリストを見直すと、

2. 棋学類想者 55 手。

とある。最長手数ではないので、ナナメに見
ただけだった。この作をあらためて見て驚いた。

図 5 棋学類想者 55 手 パラ 294 号

										9	8	7	6	5	4	3	2	1
										一								
										二								
										三								
						飛				四								
					皇		皇			五								
				科	皇	科	皇	科		六								
				ス	糸	王	糸	ス		七								
				ス	ス		飛	ス		八								
				角		王		角		九								

持駒 なし

配置が中島氏の 45 手作と同じ…。いや一枚
だけ 44 飛が 34 飛に変わっている。これだけで
手数が 55 手に延びるのか。マジック！
作者の思考過程の手がかりになるとともに、洒
落も効いている。

=====
 = 第14回 神無太郎の氾濫 問題編 =
 =====
 今回の問題は持駒にGのある協力詰です。お楽しみください。

<余談>

さて、いつもの数学ネタですが、今回は詰将棋に関係しているかもです。

$$\sum_{i=1}^n \frac{1}{a_i} = 1$$

ただし、 a_i は自然数で、 $2 \leq a_1 < a_2 < \dots < a_n \leq 99$ とするとき、 n が最大となる場合を求めよ。

例) $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \frac{1}{6} = 1$

これは古い数学セミナー（1992年11月号）に載っていた問題で、大学の同級生が解けないと言ってきたので、考えて（実験して）みました。n=42のパターンが複数見つかりましたが、最大かどうかは同級生同様分かりませんでした。

そこで、別の知り合いに聞いてみたところ、解答掲載号を所有しているということで、解答稿を見せてもらいました。以下その抜粋。

n=42まで求めた方は13人でした（・・・、福岡県・森茂、・・・）、

この中で、n=42が最大であると証明または証明に挑戦してくださったのは、・・・の各氏です。また、n=42に解が27通りあると分類したのは森茂氏です。これは、もう少し検討の余地があるので保留にしておきます。

この森茂氏、あの森茂氏ではないでしょうか。福岡県だし、いかにも森さんが好みそうな問題だし、出題者の検証能力を超える解答をしているし。同姓同名の可能性もないとは言えませんが、こんな人がそうそういるとも思えません。

<ルール説明>

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【Grasshopper】(G)

フェアリーチェスの駒。クイーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。

※各題Gの総駒数は4の設定です。

<問題>

【14-1】

協力詰 11手

				王						一
					歩					二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 G3

【14-2】

協力詰 11手

										一
				王						二
					歩					三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 G3

【14-3】

協力詰 11手

										一
										二
										三
				王	桂					四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 G2



入門編他 担当者（再掲）

先月開催された「詰四会オンライン」に神無七郎氏が初参加されてフェアリー新ルールの「ライフル」の説明を大変分かりやすく説明して頂きました。その時の雑談の中で、昔からWFPは難しすぎたり、ルールも百鬼夜行化してフェアリー初心者に対して優しくないという課題があります。今回の詰四会オンラインの中で七郎さんも言及されていましたが今後のWFPにはフェアリスト育成の観点からも初心者向けのコンテンツが必要ではないかと、そして担当者は、若い方にやって頂きたいと。私も同じ事を考えていました。

というわけでとりあえず担当者を募集してみようと思います。

【要項】

- ・WFP に新設する初心者向けコンテンツの担当者。
- ・初心者向けコンテンツの内容は担当者にお任せします。解答募集形式や解付で紹介、ルールも解りやすいものに絞るとか、1回1ルールで開催するとか、お好きなようにしていただいて結構です。負担が少ないように毎月でなくても結構です。回数を限定でも可。
- ・Word で原稿作成できる方。
- ・ページ数に制限はありません。
- ・複数の申し込みがある場合は、コンテンツ内容を調整するなどして複数のコンテンツを掲載する場合があります。

申し込み先：

たくぼん： takuji@dokidoki.ne.jp

先月号で募集をかけましたが、残念ながら問い合わせを含め全く反応がありませんでした。

しばらくは募集を継続していきたいと思しますのでよろしくお願いします。

また初心者向けコンテンツに限らず、単発でも連載でも何かやってみようと思われる方がありましたら遠慮なくお申し出ください。

また単発のエッセイや論考、やって欲しい企画など何でも OK ですですのでよろしくお願いします。



解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2021年11月10日(水)

推理将棋第 144 回出題

推理将棋 3 題

2021年11月15日(月)

第 133 回 WFP 作品展

フェアリー作品 1 2 題

第 14 回神無太郎の氾濫 問題編

フェアリー作品 3 題

(sgr03057@nifty.com)

2021年12月12日(日)

第 2 回おぼかな作品展

フェアリー作品 1 0 題

2021年12月15日(水)

第 135 回 WFP 作品展

フェアリー作品 1 1 題

推理将棋 1 題

作品募集一覧

詰将棋メモ 推理将棋 2022 年年賀詰

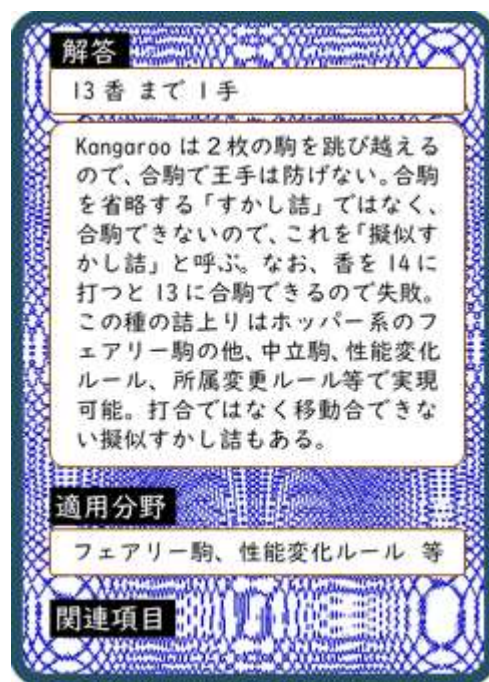
2022 年の出題は 2022 年元旦の年賀詰の出題を予定しています。

つきましては、2022 年、令和 4 年、トラ、虎、寅などに因んだ年賀詰作品を募集いたします。

(こじつけ可)

投稿締め切りは 12 月 15 日といたします。奮っての投稿をよろしくお願ひします。

今月の手筋 (解答)



【あとがき】

暑い日が続いていたかと思うと、数日前から急に寒気が流れ込み肌寒くなってきました。例年私の住む新居浜市は 10 月 16~18 日に新居浜太鼓祭が開催されますが、今年も昨年同様コロナの影響で中止となり静かな 3 日間となりました。やや陰りが見えてきたコロナウイルスの感染状況ですが、第 6 波が来ない事を祈るばかりです。

たくぼん

2021 年 第 160 号

Web Fairy Paradise

非売品

令和三年十月号

令和三年十月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp